

者一人宛ノ場合ナレハ義務解除ノ効果ヲ有スト雖モ數人ノ連帶義務者アル場合ニ於テ其中ノ一人ニ對シテ履行ノ訴ヲ爲サルヘシト契約スルモ唯契約者相互ノ間ノミニ効アリテ他ノ者ニ及ハサルモノトス是其釋放ト異ナル效果ナリトス又外面釋放ヲ爲スト雖モ其意唯釋放ヲ受クル一人ニノミ其利益ヲ與フル爲ニメシテ時ニ他ト共ニ履行ノ訴ヲ受クルノ妨害トナラサル趣旨ヲ以テ一人ニ對シテ釋放スルトキノ如キハ義務者全部ニ向ヒ釋放ノ効果ヲ有セサルハ勿論ナルヘシ例ヘハ甲乙二人ノ組員原告人ニ負債アルトキ組員ノ一人甲多少ノ入金ヲナシテ原告人ト以後己レ一人丈ケハ請求ヲ受ケサルコトニ契約セリ此契約ニハ乙立會ハス但契約ノ趣旨ハ左ノ條項ヲ明認セリ第一此契約ハ乙ノミニ對スル原告人ノ訴權、甲乙二人ヲ共ニ相手取ル原告人ノ權理、甲乙共同ノ財産ニ對ス

ル原告人ノ訴權ヲ消滅セサルヘシト此場合ニ於テ右ノ契約ハ原告人
 カ甲乙二人ニ對シ組合ノ負債ヲ訴求スルノ妨害トナルコトナカルヘ
 キナリ

第十四回

(第三) 負債主并抵當物件ノ更改
 負債主并ニ抵當物件ノ更改モ義務消散ノ一原因トナルモノナリ則チ
 已ニ成立スル連帶責任ヲ他種ノ責任ト更改スルヨリシテ其連帶責任
 ナ消散セシムルナリ此場合チ分テ二トス
 第一 權利者義務者間ノ契約ヲ以テ更改スルコト
 第二 以上ノ契約ニ拘ハラス併滅ノ原理ニ由リテ更改スルコト
 先其第一ノ場合ヨリ論セン

義務者ノ
更替ニ依
リ義務ノ
消滅

組合員間
ノ約束ハ
債主ニ對
シ效力ナ
シ

一般ニ論スレハ一ノ責任ヲ負フ者之ヲ他ノ義務ト置キ換ユルニハ其
約束ニハ必ス權利者立チ入り自ラ約諾セサル可カラス例ヘハ此ニ甲
乙丙ノ三人アリ 乙債主、甲負債 甲ハ其百圓ノ義務ヲ丙ニ讓渡サントス
時ニ甲ト丙トノ間ニ於テハ充分其約束ノ成リシモ權利者タル其乙ノ
相談ニ立チ入ラサルトキハ乙ニ向ヒテハ何等ノ效果ヲモ生セサルヲ
以テ矢張乙ハ甲ニ對シテ従前ノ義務ヲ強テ盡サシムルコトヲ得ルモ
ノトス然レトモ若シ乙ノ甲丙ノ間約束ニ立チ入りテ己レモ之ヲ約諾
セルトキハ其レヨリ甲ノ義務ハ丙ニ移リ以後丙ハ乙ニ對シテ義務ヲ
負フコトニ立チ至ル可シ要スルニ義務者ノ其義務ヲ他ニ讓渡ス場合
ニハ權利者之ヲ約諾セサル可カラズ然ラサレハ其讓渡ノ效ナキモノ
トス 甲ノ義務ヲ丙ニ讓渡スルニ依リテ甲ノ義務ハ消滅スルコトナシ
又一例ヲ掲ケンニ甲乙丙三人ノ組合アリ其中甲ハ脱社セシヲ以テ乙

丙ハ甲ノ義務ヲ引請ケ引續キ其業ヲ營ムカ又ハ戊ハ甲ノ代リニ入社シテ甲ノ義務ヲ引請ケント約シ組合ノ事務ヲ取扱ヒシトスルモ其事タル債主ナル丁カ之ヲ承諾シ居ルモノナラサル可カラス否ラサレハ其約束ハ債主ニ向テハ何等ノ放力ヲモ生スルコトナキモノトス乃チ甲ハ従前ノ如ク其義務ヲ負ヒ丁ハ甲ニ係リテ訴求スルコト隨意ナリトス然レトモ權利者タル丁ハ之ヲ約諾シタルトキハ從來義務者ノ一人タル甲ニ係リテ訴ヲ起スコト能ハサルモノトス是ヲ以テ凡テ組合員ノ一人脱社スルコトアルトキハ何時モ此議論ヲ生スルモノナレハ宜シク豫メ確定シ置ク可キナリ若シモ債主ハ退社員ノ義務ヲ免シ之ニ換フルニ新組合ノ責任ヲ得ント特ニ約諾スルトキハ其脱社員ハ此ニ義務ヲ解キ再ヒ債主ノ爲メニ訴求サル、コトナキモノトス

商社ノ創立規則杯ニ株主タルモノ、義務ハ株券ヲ他へ讓渡スヲ以テ

新組
夏替ニ
美善答
聯合員
債主ニ
債主ニ
債主ニ

株券ノ移
轉ニ依リ
義務ヲ免
スルハ能ハ

債主カ脱
員者ヲ免
除シタリ
ト云フ法
律ノ推定
ナシ

消滅スルモノ、如ク規定シアルモノ往々之レアレトモ設ヒ社則ニ株
主ノ責任ハ有限ナリト規定スルモ政府ノ特許ヲ得サレハ社外ニ向テ
其効果ナキト一般社外ノ債主ニ向テハ何等ノ効顯モナキモノナリ之
ヲ法律語ニテ言ヘハ組合ハ解散スルコトヲ得而シテ其解散ハ未來ノ
事柄ノミニ關シ過古ノ事柄ニ關セス他言スレハ是ヨリ爲スコトニ付
テハ解散ノ效力ヲ保ツト雖モ既ニ爲シタル事柄ニ付テハ其責任ヲ完
結スルマテハ事務繼續シテ解散セサルモノトス
義務者更改ノコトハ權利者ノ約諾ヲ要スルト云フ原則ノ適用ニ付テ
三箇ノ條件アリ

第一條件

組合ノ一人脱員スルコトアルモ唯其一事ヲ以テ
權利者ハ其脱員者ノ義務ヲ免セシモノト推定ス
ルヲ得ス義務ヲ免スルニ付テハ必ス權利者ノ約

債主カ殘
組合員ノ
ミナ以テ
義務者ト
ナサント
有効ナリ

組合員ノ
一人ヲ釋
放スレハ
其効果全
部ニ及ブ

第二條件

諾アリシコトノ證據ナカル可カラス

數人ノ連帶義務者ヲ有スル權利者(即チ組合ノ債主ノ如キ)カ其連帶義務者ノ一人ヲ免除シ殘義務者ヨリ義務ヲ得ンコトヲ約諾スルトキ其約諾ハ無原因ノ故ヲ以テ無効トナスヲ得ス

英國契約法ニ於テハ契約ニハ必ス原因ナルモノヲ要スルコトナルニ
今債主ハ故ナク數人ノ中一人ヲ免除シテ殘者ノミニ係ルコト、スレ
ハ無原因ノ契約ナルカ如シ然ルニ此權利者ノ約諾ハ之ヲ無原因ナリ
トシテ其約束ヲ無効トスルニ及ハサルコトヲ云フタルモノナリ
第三條件 殊別ノ情況アルニアラサレハ組合員ノ一人ヲ免
除シタル時ハ從テ組合全部免除ノ結果ヲ來タス
故ニ若シ債主組合員ノ脱スルモノニ對シテ其義務ヲ免除シタルノミ

ニテ更ニ從來ノ義務ハ之ヲ新組合即チ殘組合ニ求ムルカ又ハ殘組合ト共ニ交代組合員ニ對シテ求メサルトキハ債主ハ遂ニ全ク權利ヲ失フニ至ル故ニ債主ニ於テ退社員ノ義務ヲ釋放セシヤ否ヲ見ルニ付テハ先債主ハ新組合ニ對シテ從來ノ義務ヲ負ハシタルコトニ着手セシヤ否ヲ觀察スルヲ必要トス是レ債主ハ故ナク全ク自己ノ有スル權利ヲ放棄セシモノト看做シ得ヘカラサレハナリ

以上ハ原則ヲ示シ併セテ之レニ説明ヲ與ヘタルモノナリ以下退社員ノ義務ヲ釋放セラレシト否ラサルトノ場合ヲ二項ニ分チ之ヲ論述ス可シ

〔第二〕 退社員ノ解放セラレサル場合

其一 交代組合員ノ無カリシ時

其二 交代組合員ノ有リタル時

〔第二〕 退社員ノ解放セラレタル場合

其一 交代組合員ノナカリシトキ

組合員ノ一人退社シ而シテ其者ニ付テハ債主ノ解放ナク又新入組合員ノアラサル場合ニハ古キ判決例ニ由レハ一人退キシ後ニ新ニ交代スル人ナケレハ解放アル可キ筈ナシ即チ退社員ニ代リ義務ヲ負フヘキモノナキニ唯故ナク退社員ノ義務ヲ免スルト云フコトハアル可キ理ナク是レ無原因ノ約諾ナレハ從テ裁判所ニ於テハ、設ヒ解放アルモ其效ナキモノトセリ然レトモ畢竟義務解放ノ如何ハ證據法上ノコトニ關スルモノニシテ強チ新入組合員ノナキ場合ハ釋放ノ効ナキモノトナスヲ得サルヘシ左レハ近時ノ判決例ヲ視ルニ甲乙二人組合ヲナシ丙ヨリ金ヲ借り入レ之ヲ返サ、ル中ニ甲ハ退社シ其組合ヲ解散セリ然ルニ乙ハ最前ノ義務ヲ悉皆引受クルコト、ナシ其後丙ハ乙ニ向

判例

判例

ニ向ケテ爲替手形ヲ振出シタレトモ乙之レカ支拂ノ資力ナキヲ以テ
此ニ於テ丙ハ更ニ甲乙共ニ相手取りテ訴ヲ起シタリ其告諭ニ曰ク此
場合ニ於テ甲ハ已ニ退社ニ依リ義務ヲ釋放セラレタルヤ否ヤハ全ク
事實ノ問題ニシテ證據ニ依リ決定セラルヘキモノナリ決シテ豫メ法
律上之ヲ推定スルヲ得ストアリ

又債主カ組合員ノ一人退社シタル後殘組合員ノミチ義務者トシテ取
引シ居リタレハトテ決シテ先キニ退社セシ一人ノ義務ヲ釋放セシモ
ノトナスヲ得ス例ヘハ此ニ組合ノ一人ナル甲某退社シ殘リ乙丙ノ兩
人其義務ヲ負フコト、ナリ而シテ債主ハ是迄五分ノ利息ヲ取り來レ
ルニ以後ハ六分ノ利子ヲ取り居レリ當時ノ判決ニ曰ク此場合ト雖モ
債主ハ明カニ釋放ノコトヲ約諾シタル證據ナキ限りハ甲ヲ釋放セシ
モノト見做スヲ得ス故ニ甲ハ如何ニ退社スルトモ未ダ從前ノ義務ヲ

免カレ得サルモノナリト又殘組合員カ從前ノ負債ニ對シ新ニ債主ヘ
保證物ヲ入レ又ハ證書ヲ差入ル、モ唯此一事ヲ以テ退社員ノ義務ハ
釋放セラレタリト云フコトヲ得ス

其二 交代組合員ノアリシトキ

一人退社シ其代リニ入り來ル者アルトキハ其退社セシ者即時ニ義務
ヲ免レタリト云フコト能ハス義務ノ免否ハ釋放ノ約束ノ有無ニ由リ
テ定ムルモノナリ即チ一人ツ、ノ出入アルトキハ前ノ理ニ由リテ設
ヒ新ニ入り來ル者アレハトテ退社セシ者ノ義務免除シタリト認ムル
コトヲ得ス只此ハ釋放セシナラント云フ強キ證據ニハナレトモ決シ
テ釋放アリシモノトハ見做サ、ルナリ義務ノ釋放アリシモノト認ム
ルニハ債主ノ釋放セシ事實ノ明存スルコトヲ要ス何トナレハ出入員
共ニ協議シテ其義務ヲ換ヘルトモ權利者ノ之ヲ知ラサルモノナレハ

交代員アリ
タレハ
トテ退社
員ヲ釋放
セルモノ
トナスヲ
得ス

其相互間ノ約束ハ債主ノ釋放ノ理由トナラサルナリ此ニ一ノ判決例ヲ舉示センニ

酒造ヲ營業トスル組合アリ常ニ組合員ノ出入アリタリ然ルニ其組合ニ一ノ書記アリ其組合ノ成立以來始終社務ヲ執リ居レリ曾テ金若干圓ヲ該組合ニ貸與シ月々其利息ヲ受取り生計ヲ營ミタリ而シテ其金ヲ貸渡セシ當時ハ三人ノ組合員アリ其後種々ノ出入アリテ既ニ今日ニ至リテハ其三人ノ者ハ夙ニ脫社シ其組合ニ影タモ留メサリシ然ルニ裁判所ハ右ノ三人ニ對シテ今猶其書記ハ貸金ヲ請求スルノ訴權アリト判定セラレタルコトアリシニ

第十五回

此ニ債主ハ新組合ヲ相手取り負債ヲ要求シ得ルヤト云フニ表面ヨリ見レハ稍擬疑ニ亘ル如シ如何トナレハ若シ新組合ヲ訴フルヲ得スト

新組合ニ
對スル訴
權ト舊組
合ニ對ス
ル訴權ハ
併立ス

スレハ新組合ノ責任ヲ以テ舊組合ノ責任ニ更換シ得ヘシトノ原則ニ
抵觸スルカ如ク之ニ反シ若シ訴フルコトヲ得ヘシトスレハ債主カ既
ニ舊組合ニ對スル確然ノ權利ヲ棄テ、容易ク新組合ニ向フテ之ヲ求
ムルノ意思アルヤ否ヤヲ認ムルニ難カル可ケレハナリ然レトモ債主
カ負債主ト協議上更ニ以後ハ新組合ニ對シ其義務ヲ請求ス可ク舊組
合ニ對シテハ請求セサル可シト約スル如キハ法律上毫モ差支ヒナキ
コトニテ新組合ヲ訴フルノ權ト舊組合ニ對スル訴權トハ毫モ抵觸ス
ルコトナカル可シ

〔第二〕 退社員ノ釋放セラレタル場合

其如何ナル場合ヲ問ハス苟モ裁判所ニ於テ事實上及法律上債主ハ舊
組合員ノ義務ヲ實際免除シ其代リニ殘組合員ヲ以後ノ義務者トナシ
タルコトヲ認メ得ヘキニ於テハ此ニ新舊義務ノ更換ヲ生シ退社員ノ

負債併減
ハ義務消
散ノ原由
トナル

義務又ハ舊組合ノ義務ハ全ク消散スルモノナリ例ヘハ此ニ二人ノ組
合アリ物品ノ代金トシテ替爲手形ヲ振出シタル後組合ノ一人脱社シ
手形ハ仕拂期限ニ至ルモ仕拂フコトヲ得サリシ然レトモ殘組合員ノ
一人ハ手形ヲ書キ換ヘ更ニ己レ一人ノ名前ヲ以テ新規手形ヲ差入レ
債主ハ組合ノ一人カ脱社シタルノ事實ヲ知テ之ヲ受領セリ此場合ニ
於テハ債主ハ脱社員ノ義務ヲ釋放シ殘組合員ヲ以テ爾後ノ義務者ト
爲シタルモノト認ムルヲ得ヘク從テ脱社員ノ義務ハ此ニ消滅シタル
モノトス

(第四) 負債ノ併減

債主カ負債主ヨリ新タニ從前ノ負債ニ對スル者ヨリモ高等ナル保證
物ヲ得テ之ヲ單ニ抵當トシテ受取り置クコトニ注意セサルトキハ右
ノ如キ高等ノ保證物ハ從前ノ負債ヲ併減スルノ效果ヲ生スヘシ例ヘ

ハ此ニ普通契約ヨリ生スル負債アリタルトキ此負債ニ對シ捺印證書
ヲ差入ルレハ普通契約ノ負債ハ此ニ消滅シ其代リニ捺印契約ノ負債
ヲ現出スルモノナリ即チ捺印契約發生シタル爲メ從前ノ普通契約ハ
其中ニ併滅セラレタルモノト云フ可シ又例ヘハ一ノ契約又ハ負債ア
リテ之ニ付確定裁判ヲ經ルトキハ其契約又ハ負債ハ裁判中ニ併滅セ
ラレ以後ハ契約又ハ負債ニ由ラスシテ其裁判ニ由リ義務ノ執行ヲ求
ム可キモノトス即チ最初ハ契約又ハ負債カ義務ノ原因ナリシモ裁判
ノ爲メニ併滅セラレ其代リニ裁判カ義務ヲ生スルノ原因ト變リタル
ナリ故ニ此場合ノ例ヲ組合ニ付テ云ヘハ組合ノ負債ニ付裁
判アレハ此ニ其負債ハ消滅シテ裁判ト代ハルカ故ニ爾後義務ノ要求
ハ其裁判ニ起因スルモノトス故ニ債主カ組合ノ一人ニ對シ組合ノ負
債ヲ出訴シ勝訴ノ裁判ヲ得タルトキハ他ノ組合員ヲ共ニ訴フル能ハ

サリシ特別ノ理由アルニ非サル限りハ再ヒ他ノ組合員ニ對シテ求スルノ權利ヲ失スヘシ

(第五) 時期ノ經過

此ハ我國ニモ行ハル、所謂出訴期限ナルモノニシテ凡ソ法律ニ規定セル期限内ニ出訴セサレハ權利者ハ其訴求權ヲ失フコトヲ定メタルモノナリ此出訴期限ノコトニ付テハ我國法律ニ取リテハ隨分目下必要ノ問題ニシテ論ス可キコト少カラサレトモ特ニ組合法ニ限りタルモノニアラサレハ此ニ深ク講究セス幸ニ組合法ヲ講シ終ルノ後猶學期ニ餘暇アレハ其時ニ講スルトシテ暫ク此ハ後日ニ讓ラン

組合員相互ノ權利義務ヲ論ス

[第一] 組合員ハ各自業務ヲ取扱フノ權利アルコトヲ論ス

通常ノ組合ニ於テハ組合員ノ間ニハ最モ親密ナル關係ヲ有スルヲ必

組合ニハ
執務ノ自
由アリ

要トシ從テ各自其業務ニ干涉シ事業ノ利害ヲ親シク視察スルノ權利
アルモノトス故ニ殊別ノ證據アルニアラサレハ組合員各自ハ其差入
金高ノ額ニ拘ハラズ總テ平等ノ資格ヲ有シ互ニ執務干涉ノ權ヲ妨害
セサランコトヲ要ス加之ス組合ノ一人己レカ組合ニ對スル所ノ諸權
利ヲ他ノ組合ニ抵當ニ差入ル、コトアルトキト雖モ猶業務ニ干涉ス
ルノ權利ヲ保有スルモノトス實ニ執務干涉ノ權ハ組合員各自ニアリ
テ相互ノ間最モ貴重ス可キモノナルカ故組合員タルノ權利ヲ害スル
此執務干涉ノ權ヲ妨害スルヨリ甚タシキモノハナシ尤モ執務上ノ便
宜ヲ計リ相互ノ間ニ於テ組合ノ一人又ハ數人ニ執務ヲ委任シ他ハ之
ニ干與セサルコトヲ約スルコトアレハ其カ爲メニ他ノ組合員ハ執務
干涉ノ權ヲ行フテ得サルコトアル可シト雖モ此等ハ相互ノ契約上斯
ク爲ス可シト取極メタル上ノコトナレハ勿論例外ナリトス然レトモ

商社ハ之
ニ反ス

組合外ノ世間ニ對シテハ組合員各自ハ組合ノ業務ヲ相當ニ取扱フコトニ付テハ各自其權ヲ有シ組合ノ代理ト見做シ得ヘキカ故ニ其權限ヲ知ラサル第三者ニ對シテハ時トシテ組合ハ内輪ノ契約ニ背キ組合ノ一人カ爲シタルコトニ付テモ組合ノ業務中相當ニ爲シ得ヘキコトナレハ其責ヲ辭スル能ハサルヤ勿論ナル可シ夫レ斯ノ如ク組合ニハ各自ニ執務干涉ノ權アルヲ以テ本体トスレトモ商社ノ如キ多人數ヨリ成立スル社ニシテ特ニ役員等ヲ撰擧シ執務ヲ任スルノ組織アル場合ニ於テハ株主タル者ハ同シク社員ナレトモ恣ニ商社ノ事務ニ吻ヲ容ル、ノ權ナク又株券ノ高ニ由リ其權利ニ異同アルモノナリ是レ組合ト商社ト異ナルノ一點ナリトス猶商社役員ノ權利及株主ノ權利等ニ付キ論スルコト巨多アレトモ先ツ差當リ仍ホ組合法ノ論ス可キ部分アルヲ以テ自餘ノコトハ暫ク後日ニ讓ラン

〔第二〕組合員相互ノ間ニ於テハ德義ヲ專ラトシ互ニ越權ノ所
 爲ナカラシムコトヲ要ス
 組合員相互ノ間ニ在リテハ最上ノ德義ヲ遵奉ス可ク獨リ法律上ノ義
 務ナシトテ不信ノ所爲アル可カラサルコトヲ要ス故ニ若シ組合ノ一
 人カ組合ニ由リテ以テ己レ一個ヲ私ニ利セントシタルコトアルニ於
 テハ其組合員ハ獨リ法律上義務ヲ破ラサルコトヲ證明スルノミナラ
 ス猶道徳上背信ノ所爲ナキコトヲ證明セサル可カラス例ヘハ組合員
 ノ一人カ獨リ組合ノ計算上又ハ業務上ノ事ヲ知り之ヲ他ノ組合員ニ
 秘シテ告ケス而シテ何ニカ其計算上又ハ業務上ノ事ニ關シ相互ノ間
 ニ契約スルコトアラハ若シ其事實ヲ陰蔽シタル爲メ他ノ組合員ニ損
 害ヲ來ス如キ事アルニ於テハ其契約ハ效力ヲ有セサル可シ
 此德義上ノ義務ヲ有スルコトハ獨リ實際ノ組合員ノミナラス組合ノ

設立セント計畫スル所ノ人々又ハ組合ヲ解散シテ殘務ヲ取扱フ人々ノ間ニ於テモ亦之ヲ守ラサル可カラス又組合員カ組合ノ一人ヲ組合ヨリ退ケントスル如キ場合ニ於テハ最モ深ク徳義上ノ關係ヲ重シ苟ニモ背信ノ所爲アル可カラス然レトモ若シ組合ノ一人カ契約ニ背キ組合員タルノ義務ヲ盡サ、ルニ於テハ其組合員ハ他ノ組合員ニ向テ徳義上ノ義務ヲ責ムルコトヲ得ス從テ放逐セラル、コトアルモ之ヲ拒ムコトヲ得ス是レ信義ヲ求メントスル者ハ己レ先ツ信義ヲ盡サ、ル可カラサルカ故ナリ

[第三]組合ノ利益ヲ損シテ己レヲ利スルヲ得サル各組合員ノ義務ヲ論ス

組合員ハ相互上信義ノ最モ重ス可キコトハ前ニ云フ如クナレハ組合員ハ組合ヲ犠牲ニ供シ私利ヲ營ムヲ得ス故ニ事苟モ組合ノ業務ニ關

組合員ハ
組合ヲ損
シテ己レ
ヲ利スル
ヲ得ス

スルニ於テハ出來ヘキ丈々共同ノ利益ヲ計リ己レ恣ニ獨有セサラン
コトヲ要ス故ニ組合カ世間ト取引スルニ當リテハ之ニ從事スル組合
員ハ成ル可ク組合ノ爲メニ利益ヲ増加シ正當ニ他組合員ト共ニ分配
スルコトヲ勉ム可シ
此ニ組合員ノ一人カ組合ニ由リテ以テ私利ヲ營ムコトニシテ往々實
際ニ現ハル、二箇ノ場合アリ
第一場合 卽チ組合ヨリ直チニ利得ヲ奪フコト
前ニモ論スル如ク組合ノ一人ハ組合ヲ犠牲トシテ一己ノ利得ヲ壟斷
スルヲ得サレハ從テ組合員全体ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ組合ト取
引ヲ約シ由テ以テ己レヲ利スル能ハス例ヘハ組合ノ一人カ組合ノ爲
メニ物品ヲ賣買スルニ當リテハ己レノ所有品ヲ組合ニ賣リ又ハ組合
ノ所有品ヲ己レニ買ヒ以テ其間利純ヲ得ルコトヲ得ス今一ノ判決例

ナ示サンニ砂糖賣買營業ヲ爲ス組合アリ其組合ノ一人砂糖ノ相場ノ
 コトニ熟練セルヨリ砂糖買取りノ事ヲ組合ヨリ托サレタリ然ルニ其
 組合員ハ砂糖ノ相場ノ騰貴スルコトヲ見込ミ己レ先ツ之ヲ廉價ニテ
 買取り置キ砂糖ノ相場ノ騰貴スルヲ待テ高價ニテ之ヲ組合ニ賣リ附
 ケ己レカ先キニ買取置キタル品ナルコトヲ陰蔽シタリキ此場合ニ於
 テ右組合員ハ己レ所有ノ砂糖ヲ高價ニ賣リ由リテ得タル利益ハ不當
 ノモノナルカ故其利益ヲ組合ニ償却ス可シト判定セラレタルコトア
 リ又此ニ二人ノ組合員アリ五千圓ヲ以テ或ル鑛山ヲ買受ケ之ヲ他へ
 賣却シテ利純ヲ得ント契約セリ而シテ遂ニ之ヲ買取り更ニ六千圓ニ
 賣却シ利潤千圓ヲ二人ニテ分配スル積ナリシカ其一人ハ竊ニ之ヲ七
 千圓ニ賣リタルコトアリタリ此場合ニ於テハ他ノ組合員ハ其七千圓
 ニ付利益ノ分配ヲ受ケント要求スルノ權利アル者ト判定セラレタリ

此判決例ヲ見ルニ七千圓ニ賣リタル組合員ハ果シテ七千圓ニ賣ルノ見込アレハ前以テ其事ヲ他ノ組合員ニ告ケ知ラセサル可カラス然ルニ己レハ之ヲ隱シ恰モ六千圓ヨリ高價ニハ買手ナキカ如ク見セ掛ケ己レノミ千圓ノ利純ヲ得ントシタルヨリ遂ニ裁判所ニ於テハ猶之ヲモ分配ス可シト判定セラレタルモノト見ヘタリ之ニ由リテ觀レハ組合員相互ノ間ニ於テハ苟モ共同ノ利益ニ關スルコトハ覆藏ナク之ヲ打チ明ケサル可カラス若シ之ヲ陰蔽シテ獨リ利益ヲ得ントスルモ法律ハ之ヲ許サ、ルナリ又此判決例ニ由レハ設ヒ組合員中幾干ニ賣却ス可シト直段ヲ取極ムルモ若シ其ヨリ高價ニ賣レハ其分ヲモ互ニ分配セサル可カラズ獨リ賣リタル者ノ利得ト爲スヲ得サルモノハ如シ

第十六回

第二場合 正當ニ組合力得ヘキ利益ヲ押領スルコト

組合員ハ組合共有ノ財産ヲ己レ一個ノ爲メニ使用シ因テ獨リ利得ヲ占ムルコトヲ得サルノミナラス又組合ト競争シテ他ニ事業ヲ營ム如キコトアル可カラス例ヘハ此ニ二人ノ組合アリ業務上或ル鐵類ヲ買取ントシテ之ヲ其一人ニ委子タリ然ルニ其一人ハ偶マ或ル鑛山ノ傍ニ店ヲ開キ居リタルヨリ店頭ニ陳列シアル或ル賣品ヲ鑛夫ニ與ヘ組合カ注文セシ鐵類ヲ得テ之ヲ組合ニ送り後チ右鐵類ノ代價トシテ鑛夫ニ與ヘタル賣品ノ賣直ノ額ヲ記載シテ組合ヘ其代金ヲ請求セリ然ルニ組合ニ於テハ右鐵類ノ代金ハ鑛夫ニ與ヘタル賣品ノ實價ヲ以テ見積ルカ相當ナレハ其實價ヲ鐵類ノ代金トシテ拂渡ス可キモ賣直ノ額ヲ渡スヲ得スト主張セリ此場合ニ於テ裁判所ハ組合ノ抗辯ヲ採用シ抑モ組合ヨリ鐵類買取ノ委托ヲ受ケタル組合ノ一人ハ盡ス可キ丈ケノ周旋ヲ爲シ最モ廉價ニ之ヲ得テ組合ヘ給附ス可キ義務アリ而シ

テ若シ其組合員カ自己ノ店頭ニアル賣品ト交換シテ組合注文ノ鐵類
 ナ得タラハ其交換シタル賣品ノ實價ヲ以テ右鐵類ノ代金ト見做サハ
 ル可カラスト判定セリ又此ニ一ノ船舶ヲ組合テ所有シ其一人船長ト
 ナリ右船舶ノ使用上ヨリ得タル利益ハ互ニ分配セント約セリ然ルニ
 右船長ハ竊ニ船ヲ己レ一個限リノ商業ニ使用シテ非常ノ利益ヲ得タ
 リ此場合ニ於テ船長ハ其利益ヲ組合ト共ニ分配ス可キ義務アルモノ
 ト判定セラレタリ其理由ハ組合員ノ一人トシテハ專ラ組合ノ爲メニ
 共同ノ利益ヲ計ルコトニ盡力セサル可カラス決シテ私益ノ爲メニ共
 有ノ船舶ヲ使用スルヲ得ス但シ設ヒ船長一個ノ資金ヲ以テ商業ヲ營
 ミタルトキト雖モ又商業上ニ於テハ船長ハ一個限リノ營業ヲ爲スコ
 トヲ得ル習慣アル場合ト雖モ組合員間ニアツテハ此等ヲ以テ利益ヲ
 特有スルノ理由トナスヲ得ス

組合ニ關
係アルヨ
リシテ組
合員ノ得
ル利益

組合員ハ組合員タルノ故ヲ以テ初メテ營ミ得ヘキノ營業ハ組合ト離
レテ別ニ自己限りニ之ヲ營ムコトヲ得ス是レ組合ニ對シ畢生ノ力ヲ
盡ス可キ義務アルカ故ニ從テ組合ト反對ノ地位ニ立チ組合ニ不利益
ナルコトニ從事スルヲ得ス故ニ己レ組合員タルノ故ヲ以テ他ニ利得
ヲ得ルノ道アルモ一箇ノ事業ナリトノコトヲ口實トシテ其利得ヲ得
ント計畫スルコトヲ得ス例ヘハ鐵道ノ組合社アリ驛遞局ヨリ御用品
ノ運送ヲ委托セラレタルコトアリタランニハ其後其組合ノ一人ハ寄
カニ驛遞局長ト協議シテ自己限りニ御用品ヲ運送スルヲ得ス若シ運
送シテ利益ヲ得レハ其利益ハ組合ト共ニ分配セサル可カラス是レ其
組合ノ一人カ運送ヲ局長ヨリ依頼セラレタルハ己レカ組合ノ一人ニ
屬シ曾テ其組合ニ於テ御用品ノ運送ヲ引受ケタルコトアルカ故ニ局
長モ組合ノ一人タルノ故ヲ信用シテ其組合員ニ運送ヲ命シタルモノ

判例

組合別
格ナル
商業

ナレハナリ
又一例ヲ示サンニ甲乙契約シテ組合ヲ爲シ甲ノ名義ヲ以テ陸軍省ノ
賄方御用ヲ請負居リタルニ甲ハ乙ニ告ケスシテ窃カニ丙ト契約シ同
シク丙ノ名義ヲ以テ同所ノ賄方ヲ引受ケ雙方ヨリ利益ノ分配ヲ受ケ
タル此場合ニ於テ乙ハ甲カ丙トノ契約ヨリシテ分配ヲ受居ル所ノ利
益ヲ己レモ同シク分配ヲ受ケント請求シタルニ甲ハ丙トノ組合ハ更
ニ乙ニ關セサルコトナレハ其利益ヲ乙ニ分ツヲ得スト主張シ遂ニ訴
訟トナリタルニ右事件ニ關スルノ先諭ニ曰ク凡ソ組合ノ場合ニ於テ
ハ設ヒ組合員間ニ他ノ同種ノ事業ニ立チサワラサルコトヲ別段ニ取
極メ置カストモ組合員ノ一人カ自己ノ名義又ハ他人ノ名義ヲ以テ組
合ト同種ノ商業ニ關與シ以テ組合ヲ害スル如キコトハ互ニ之ヲ爲サ
ル可シトノ合意ヲ以テ組成セラレタルモノト見做シ得ヘキナリト

組合ト競
争スルヲ
禁ス

謂ヘリ
前述ノ理由アルカ故ニ組合員タル者ハ之ヲ公然ニスルト否ニ拘ハラ
ス利己ノ爲メ組合ノ商業ト競争シテ他業ヲ營ムコトヲ得サルモノト
ス然レトモ爲メニ一身上ノ利害ノ相抵觸セサル如キ場合ニ於テハ互
ニ之ヲ營ムモ毫モ組合ノ商業ニ影響ヲ及ボサ、レハ此等ヲモ猶箝束
スル限リニアラサル可シ例ヘハ此ニ互ニ競争中ノ二商社アランニ右
二商社ノ株券ヲ一人ニテ所有シ居ル場合ノ如キ是ナリ
互ニ信義ヲ盡ス可キノ義務ハ獨リ己ニ成立シタル組合員間ノミナラ
ス組合ヲ組織セント協議中ノ人々ヘモ尙望ム可キノ責任ナリトス例
ヘハ其協議者ノ一人カ組合ノ爲メニ財産ヲ買入ル、ニ當リ手數料等
ヲ賣手ヨリ得タルトキハ組合成立ノトキニ於テハ組合ト共ニ之ヲ計
算セサル可カラズ決シテ自己一人カ一身上ノ働キヨリ得タル手數料

組合員間
ノ争件

ナリトテ己レノミニ入ル、ヲ得ス
〔第四〕組合員多數ノ權力ヲ論ス
業務上ニ付組合員間意見ノ合同セサルトキハ如何處分ス可キヤ普通
世間ノ事務ヲ處スルヤ多クハ斯ル場合ニハ多數ノ意見ヲ採用シ少數
者ノ意見ハ自ラ消滅セシムル如キコトニ爲リ居レトモ組合ノ場合ニ
於テハ多數者カ強テ少數者ノ意見ヲ滅却スルコトヲ許スハ僅々數箇
ノ場合ニ止リ先ツ主眼トスル所ハ強テ多數ノ意見ニ制セラレサル可
シトノ事ヲ以テ本則トナスナリ
先ツ第一ニ起ル所ノ問題ハ争件ハ組合規約ニ規定シアルヤ否ヲ確ム
ルニアリ若シ組合規約ニ規定シアレハ多數少數者ノ意見如何ナルニ
拘ハラス必ス其規定ニ基キ其争件ヲ決セサル可カラス若又之レニ反
シ規約書ニ何等ノ記載モナキトキハ茲ニ初メテ其争件ノ性質ヲ研究

別争件ノ區

營業上ニ
關スル争
件

セサル可カラス而シテ其争件ヲ大別スレハ普通營業上ニ起ル所ノ争
件營業以外ノコトニ關スル争件ノ二箇ニ分ル可シ先ツ第一營業上ヨ
リ起ル争件ニ付テ論センニ凡ソ營業上ニ關シ争件ヲ起ストキハ先ツ
現ニ行ヒ居ル所ノ方法ヲ變更セント欲スル意見ヲ後ニセサル可カラ
ス例ヘハ現任書記ヲ廢シ更ニ新書記ヲ雇入ントノ意見ヲ提出スル組
合員アリテ組合員中意見平等ニ分ル、トキハ先ツ事務ノ現狀ヲ變セ
ントノ意見即チ書記ヲ代ヘントノ意見ハ廢斥セサル可カラス然レト
モ若シ事務ノ現狀ヲ變セントスルノ意見多數ナルトキハ則チ其多數
ニ從ハサル可カラス之ヲ要スルニ現ニ行ヒ來リタル事務ノ方法ハ之
ヲ變セントノ多數ノ意見アルニアラサレハ之ヲ變スルヲ得ス若シ意
見平等ナレハ變改ヲ主張スル意見ヲ消滅セシメ現狀ニ据ヘ置サルヘ
カラスト云フニ在リ又負債ヲ拂ハスシテ先ツ利益ノ分配ヲ爲サント

ノ意見金圓ヲ借り入レントノ意見負債消却ノ爲メニ組合所有ノ財産
ノ管理者ヲ撰ヒテ之レニ引渡サントノ意見組合所有ノ財産ノ一部ヲ
賃貸セントノ如キハ大抵多數ノ意見ニ由リ決定セラル可キモノナレ
トモ組合ノ名義ヲ以テ調印ヲ爲スコトヲ其組合員ノ一人へ委任セン
トノ意見ノ如キハ設ヒ多數者之ヲ主張スルモ少數者ノ不同意アルト
キハ到底決行スルヲ得サル可キナリ其他組合カ營業上普通ニ爲ス可
キ所業ハ多ク多數ノ意見ニ由リ決定セラル可キモノナリ例ヘハ火災
保險ヲ營業トスル組合アリ其組合員ノ多數者カ保險證書中ニ列記セ
サル以外ノ原因ヨリシテ起リタル損失ニ對シ保險金ヲ拂ヒタルトキ
ノ如キ若シ夫レ凡テ他ノ火災保險社ニ於テハ此等ノ損失ハ保險證書
中ニ列記シ置カサルモ常ニ其損害ヲ拂ヒ居ル習慣アレハ此等ノコト
ハ則チ營業上當然爲シ得ヘキコト、見做スナ以テ少數者ハ之ヲ拒ム

コトヲ得ス
 然レトモ設ヒ多數者ト雖モ多數ノ故ヲ以テ隨意ニ事務ノ方法ヲ變更
 スルヲ得ス必ス組合員一同カ相當ニ協議ヲ爲シタル上各自カ誠意ニ
 思考スル所ノ意見ヲ提出シ其意見合シテ多數ヲ占メタル場合ナラサ
 ル可カラス決シテ多數者ハ我等ハ多數者ナレハ他ノ論ヲ聞クニ及ハ
 ス何事ヲモ我等ノ好ム所ヲ爲シ得ヘシト云フ如キハ決シテ法庭ノ許
 容セサル所ナル可シ加之規約上ニ組合員何人以上ニアラサレハ事
 務ノ方法ヲ議決スルヲ得スト規定シアランニ若シ定限ノ人員内ニテ
 議決シタル如キコトアレハ設ヒ定限以上ノ出席アルモ猶同一ノ議決
 ヲ爲シ得ヘキコト判然タル場合ト雖モ猶其議決ハ効力ヲ有セサル可
 シ
 是ヨリ營業以外ノコトニ關スル争件即チ營業ノ目的ヲ變更セント企

ツル如キ場合ニ於テ起ル所ノ事件ニ付テ一言センニ此場合ニ於テハ設ヒ何程ノ多數者アルモ多數ノ故ヲ以テ營業ノ目的ヲ變更スルヲ得サルモノトス如何トナレハ一定ノ目的ヲ立テ、初メテ組合ノ成立シタルモノナレハ其成立ノ基礎タル組合營業ノ目的ヲ變スルハ則チ組合ヲ解散スルト一般ナレハ一人タリトモ不同意者アルニ於テハ到底之ヲ變更スルヲ得サル可シ例ヘハ火災保險ノ組合ヲ爲ス者多數者ノ意見ヲ以テ其保險ヲ海上ノ事柄ニ變セントスルカ如キ一人ノ不同意者アレハ到底行ハレサルナリ若シ多數者ニ於テ強テ之ヲ決行セントセハ小數者ハ裁判所ニ請願シテ多數者ノ所爲ヲ停止スルコトヲ得ヘシ例ヘハ鐵道組合カ鐵道線路ヲ轉セントスルトキ又ハ石炭賣買ノ營業ヲ營マント企ツルトキ等ノ如キコトハ多數ヲ以テ決行スルヲ得サルナリ然レトモ組合員一同カ營業ノ目的ヲ變セントスルコトニ同意

The property of
partnership

Capital of
partnership

スルニ於テハ之レヲ決行シ得ヘキハ固ヨリ論ヲ待タス元ト組合ハ契
約ヨリ成立スルモノ故全組合員一致スレハ法律ノ許ス限リハ何事ヲ
モ爲シ得ルナリ但シ會社商社等條例ヲ遵奉スルモノハ設ヒ社員ノ一
致アルモ其條例ニ違背シタルコトハ之ヲ決行スルヲ得サルナリ

第十七回

組合ノ資本ヲ論ス

組合ノ資本トハ營業上ニ下ス爲メ各自カ持寄タル金額ヲ云フ故ニ其
金額即チ資本ハ營業上ニ使用スルノ目的ヲ以テ備ヘ置クモノトス左
レハ之ヲ組合ノ資産ト區別セサル可カラス組合ノ資産ト云ヘハ甚ダ
廣キ意味ニテ自ラ資本モ之レニ包含セラル、譯ナレトモ資本ハ確定
シテ動カサルモノナリ資産ハ組合ノ盛衰ニ從ヒ時々變更シ一定不動
ノモノニハアテサルナリ其ノミナラス組合員各自ノ資本ト組合員各
自カ組合ニ貸附タル金額トハ之ヲ區別セサル可カラス例ヘハ資本金

資本金ノ
増減

ハ隨意ニ之ヲ引出スコトヲ得サルモ貸金又ハ預ケ金ハ如何様ニモ其
出納ヲ爲シ得ヘク又組合解散ノトキ組合ノ資産カ其負債ヲ支拂フニ
充分ナラサルトキノ如キハ先ツ貸金又ハ預リ金ヲ先キニ支拂ヒ而シ
テ後ニ資本金ノ割戻ヲ爲サ、ル可カラス又組合員ノ資本金ハ必ス其
額ヲ明確ニ爲シ置カサル可カラス若シ各自ノ資本金平等ナラサルト
キノ如キハ其金額ヲ定メ置カサレハ之ヲ平等ト見做サル、如キ不幸
ヲ見ル可キナリ

組合ノ資本欠乏ヲ告ケ商業前途ノ見込立タサルトキハ組合ヲ解散ス
ルニ至ル可キナリ此場合ニ於テ組合員ハ猶資本金ヲ増シテ營業ヲ繼
續センコトヲ強ラル、ノ義務ナク既ニ當初各自ノ合意ニ由リ營業上
ニ用ユ可キ資本金ノ高ヲ取極メテ差出タル後ハ設ヒ増加ヲ要スルノ
必要アルモ組合同ノ承諾ヲ經スシテ隨意ニ増減ヲナスヲ得ス尤モ

Joint and separate
property

Joint and separate
property

資本金額ハ當初取極メタルヨリ以外ニ増減ヲ許サ、ルモ爲メニ他ニ對スル義務ニ影響ヲ及ホスコトナキナリ是レ他ニ對スル各自ノ責任ハ始メ之ヲ一定スルヲ得サルヘケレハナリ又既ニ組合ヘ資本金ヲ差出タル上ハ其豫定ノ營業期限間ハ組合ニ其使用ヲ許サ、ル可カラス途中ニテ隨意ニ引出スコトヲ得サルナリ

此ニ組合ノ資本ヲ増加スルコト、組合ノ名義ヲ以テ金圓ヲ借入ル、ノ職權トチ區別シ置カサル可カラス前ニモ云フ如ク各組合員ハ營業上必要ナルトキハ組合ノ名義ヲ以テ他ヨリ金圓ヲ借入ル、コトヲ得ルガ通例ナレトモ資本金ヲ差出ス爲メニ組合ノ一人カ借入レタル金額ヲ組合ニ於テ償却スルノ義務ナキモノトス

合有并別有財産ヲ論ス

組合ノ資産トハ如何ナルモノヲ指スカト云フニ一言スレハ組合員カ

組合法

百六十三

七一

七〇

Joint estate
Separate estate

組合員トシテ所有スル所ノ資産ヲ云フ故ニ組合員各自ハ不動産等ノ遺囑贈與ヲ受クルニ其不動産ハ組合員カ唯共有スルノミニテ組合員トシテ所有スルモノニアラサル限りハ之ヲ以テ組合ノ財産ト爲スヲ得ス故ニ組合ノ財産ナルカ將タ組合員一個限りノ財産ナルカヲ區別スルニ困難ナル場合少カラス從テ争ヒテ生スルコト往々アルヘキナリ是レ獨リ組合員間ニ起ル所ノ争ノミナラス債主ニ對スル場合ニ於テモ猶生スル所ノ問題ナリトス例ヘハ組合身代限りノ場合ニ於テ組合ノ財産ト組合員ノ資産トハ之ヲ分別セサル可カラス如何トナレハ債主ハ先ツ組合ノ財産ヲ盡シタル上後ニ各自ノ資産ニ及フテ通則ト爲スカ故ナリ故ニ是ヨリ組合ノ財産ニ付左ノ條項ニ照シ之ヲ論セン

- 第一 合有財産
- 第二 別有財産

第三 合有財産ヲ別有財産ニ變シ別有財産ヲ合有財産ニ變スル

コト

先ツ第一ノ合有財産ヨリ之ヲ論セン

合有財産

第一 合有財産

凡テ組合創立ノトキ組合ノ財産トシテ寄セラレタルモノ并ニ其以後
 營業上ヨリ直接又ハ間接ニ得タル所ノモノハ反對ノ證據ナキ限りハ
 組合ニ屬シタルモノト見做サル可シ故ニ組合ノ金額ヲ以テ買入レタ
 ル財産ノ如キハ設ヒ組合員一人ノ名義ニテ買入レタルトキト雖モ其
 組合員ハ則チ組合財産ノ委託人ニ過キスシテ己レノ名義ニ爲リ居ル
 コトヲ以テ己レノ財産ナリト主張スルコトヲ得ス例ヘハ組合ノ所有
 金ヲ以テ土地ヲ買入レタルニ縱令其買入人ノ名義ハ組合ノ一人ニテ
 別ニ組合ヨリ委託ノ證據ナキモ猶組合ノ財産トシテ取扱ハル可キナ

組合ノ金
ヲ以テ買
入レタル
財産
船舶ノ場
合

組合法

リ又組合ノ金ヲ以テ或ル會社ノ株券ヲ買入レタルトキ其會社ノ規則
ニシテ數人ニテ株券ヲ共有スルヲ許サル、ヨリ組合員一人ノ名義ヲ
用ヒタルトキノ如キ場合ト雖モ猶組合員ハ己レ所有名義ノ株券ナリ
トテ之ヲ如何トモスル能ハサルナリ唯困難ナルハ船舶ノ場合ニシテ
凡ソ船舶ハ内部ノ關係如何ニ係ラス表面其名義人ノ所有ト見做カ故
ニ若シ組合員一人ノ名義ヲ以テ組合カ船舶ヲ買入レ營業上ニ使用シ
居リタルトキ若シ其一人カ己レ名義ノ船舶ナルコトヲ奇貨トシテ之
ヲ專有センコトヲ試ムル如キコトアル可シ然レトモ近代ノ法律ニ由
レハ船舶ノ場合ト雖モ猶其名義人ナル組合員組合ノ爲メニハ信任委
托者ニ過キサルモノト見做サル、ナリ
夫レ斯ノ如ク組合ノ所有金ヲ以テ買入レタルモノハ凡テ組合ノ財産
ト見做スト雖モ之ニ反スル證據アルトキハ固ヨリ其推定ハ破ラル、

ナリ例へハ組合員ノ一人カ組合ヨリ金圓ヲ借入レ而シテ自己所用ノ爲メ財産ヲ買入レタリトセハ其財産ハ組合ニ屬ス可カラス之ニ反シ組合カ常ニ使用シ居ル所ノ財産ハ設ヒ組合員ノ一人カ私有金ヲ以テ買入レタルモノナルトキト雖モ反對ノ證據ナケレハ組合ニ寄托セラレタル財産ト見做サ、ルナリ然レトモ全ク組合ニ關係セサルコトヨリ組合ノ一人カ得タル財産又ハ組合ニ關係スルモ其人ニ限りテ得タル財産ノ如キハ之ヲ組合財産中ニ組ミ込ムコトヲ得ス例へハ一人ノ佛人ト二人ノ亞米利加人ト組合テ船舶ヲ所有シ居リタルニ海上英國ノ搜索船ノ爲メニ捕ヘラレタルトキ英國ヨリ特ニ右二人ノ亞米利加人ノミニ限リ償ヲ與ヘタルコトアリ此場合ニ於テ佛人ハ其償金ノ分配ヲ受ケント請求スルコトヲ得スト判定セラレタリ又組合員ノ一人カ財産ノ賃借主ニテ更ニ之ヲ組合營業間其使用ヲ許シタルトキノ如

キハ組合解散ノトキハ其賃借權ハ組合ニ於テ之ヲ他へ賣却セント求
 ムルヲ得ス必ス其組合員へ戻ル可キモノトス
 組合解散後ニ得タル財産ハ假令義務取纏中ト雖モ必スシモ組合ニ屬
 スルモノト云フヲ得ス其得タル組合員ノモノト爲スヲ得ヘキナリ例
 へハ組合員二人アリ一人ハ婦人ニテ他へ嫁シタルヨリ此ニ組合ハ解
 散シタレトモ尙其婦人ハ従前ノ通り營業ヲ爲シ他ノ組合員ハ解散前
 ヨリ永ク他國ニ在リテ留守ナリシカ突然歸リ來リテ婦人カ現有スル
 所ノ財産ハ即チ組合營業場ニ現在スルモノハ殘ラス組合ノモノナル
 カ故組合ノ一人トシテ之レニ加ハラント主張セリ然レトモ裁判所ニ
 於テハ控訴ノ未解散ノ前後ニ由リ財産ヲ正分シ解散マテノ財産ハ組
 合ノモノト云フヲ得ヘキモ解散後婦人一人カ得タル財産ヲモ組合ノ
 財産トナスハ當ヲ得タルモノニ非スト判定セラレタリ

組合法/松野貞一郎(講義)；畔上啓策(編輯)

(英吉利法律講義録 (1886 (明治 19) 年度 第 1 年級))

169 ページから 180 ページの講義録 (20 号) は非所蔵

Company. Share.

組合員ノ
株ニ對ス
ル抵當ハ
自己限リ
及ノ私借
ハスニ

Lien.

組合法

組合員ハ其物品ニ對シ抵當權ヲ主張スルヲ得ス
前ニモ言フカ如ク組合ノ財産ニ對スル各組合員ノ抵當權ハ組合カ組
合員ヘ貸付ケタル金額及ヒ組合員カ組合ニ貸附ケタル金額ニモ普及
スルモノナレトモ個ハ單ヘニ組合カ組合ノ資格ヲ以テ爲シタルトキ
及ヒ組合員カ組合員ノ資格ヲ以テ權利ヲ有シ義務ヲ負ヒタル時ニ限
ルモノトス故ニ組合員カ自己限リノ必要アリテ組合ヨリ金ヲ私借シ
後チ身代限ノ處分ヲ受クルモ右財産管理人ハ組合ニ對シ右ノ私借金
ヲ差引カスシテ先其組合員ノ株ヲ請求スルコトヲ得ヘキナリ又組合
ハ右貸金ノ請求ヲ爲スニ付特ニ其組合員ノ株ヲ差押フルコトヲ得ス
シテ專ラ其組合員ノ財産全体ニ對シ要求ヲ爲スノ外ナキナリ此法理
ハ獨リ組合ノ場合ノミナラス商社ノ場合ニテモ適用シ得ヘキモノニ
シテ彼ノ株主カ商社ヨリ金圓ヲ自己入用ノ爲メ借入レタル時商社ハ

組合法

百八十一

抵當權ノ
消滅

右金返濟ノ抵償トシテ其株主ノ所有株券ヲ差押フルコトヲ得サルモノトス但株券ヲ抵當ト爲ス等ノ特約アリタルトキハ此限ニアラサルモノトス其組合員ノ所有全額ニ限リテ是等ノ差押スルコトヲ得ル加ヘス組合財産ニ對セル各組合員ノ抵當權ハ其財産ヲ變シテ組合ノ財産ヨリ組合一個ノ財産ト爲スニ由リ爲メニ消滅スルコトアル可シ故ニ組合解散ノ下キニ於テ組合ノ財産ハ有形ノ儘各組合員ニ分配シ而シテ組合ノ負債ハ他ノ方法ヲ以テ支拂ハンコトヲ組合員中協議齊ヒ協議通りニ財産ヲ分配シタル後ハ設ヒ豫定ニ反シ負債償却ノ途相立タサルコトアルモ更ニ一旦分配シタル財産ヲ再ヒ操リ戻シテ其償却ニ充ント強ユルコトヲ得サルナリ是レ蓋シ分配ニ由リ既ニ組合ノ財産ヲ變シテ各自ノ財産トナシタレハナリ組合員ノ所有全額ニ限リテ以上抵當權ハ組合ノ資格ヲ以テ所有スル場合即チ所謂組合財産ニ付

共有者間
ニハ抵當
權ナシ

株主ノ有
スル株券
ニ對スル
商社ノ抵
當權

商社ノ株
主間ニハ
互ニ抵當
權ナシ

テノミ起ル所ノモノニシテ財産共有者ノ間ニハ斯ノ如キ抵當權ノ生
 スルコトナシ唯船舶ノ共有者ハ船舶使用ヨリ上リタル總入額ヲ以テ
 先ツ諸入費ヲ支拂ンコトヲ互ニ求ムルノ權利アリ是レ然シ船舶使用
 ヨリ得タル金額ハ先ツ之レヲ得ル爲メニ費シタル金額ヲ支拂フコト
 ニ充テサル可カラスト云フニ外ナラス

組合員ハ互ニ各組合員ノ株權ニ對シ差押權ヲ有スルモノナリトノ法
 理ニ基キ商社ニ於テモ之レト同シク商社ハ各株主カ株券ニ對シ有ス
 ル所ノ義務ニ付テハ亦其株券ヲ差押フルノ權アルモノトス但此差押
 權利ハ株券讓渡ノ件ト抵觸セサランコト要ス又商社ノ場合ニ於テ
 ハ組合ト異リ商社ヲ以テ一ノ無形人ト見做シ社員ト殊別シテ之ヲ論
 スルカ故ニ商社ノ各株主ハ互ニ其株券ニ差押權ヲ有スルモノト爲ス
 ナ得ス是レ商社ハ組合ト異リ無形人ナリトノ原則ニ抵觸スレハナリ

株ノ移轉

故ニ或ル訴件ニ於テハ商社ノ債主カ商社ノ財産ヲ差置キ直チニ株主ノ財産ニ係リ負債ノ要求ヲ爲スヲ得スト判定セラレタルコトアリ

株ノ移轉ヲ論ス

凡ソ組合商業ノ契約ニ因リ生出スル處ノ組合ハ唯其契約者間ニノミ成立シ他ニ及ハサル可キコトハ敢テ言ヲ待タサルコトニシテ各自互ノ信用カ即チ契約ノ一要素ヲ形造ルモノナレハ組合ノ一人ハ仲間ノ承諾ヲ經スシテ他人ヲ其組合ニ加入セシムルコトヲ得サルモノトス故ニ若シ組合ノ一人死去シタルトキノ如キハ其相續人ハ組合ニ加入セント主張スルコトヲ得サルナリ但豫メ此ノ如キ場合ハ相續人ヲ以テ組合員ト爲ス可シト約シ置キタルトキハ格別ナリトス之ト同シク組合ノ一人ハ己レノ株權又ハ割前チ他人ニ讓リ而シテ其讓受人ヲ組合ニ加入セシムルコトヲ得サル可キナリ然ラハ組合同一ノ承諾ヲ經

移轉ノ効
果

解散ニ付
キ移轉ノ
効果

決算ニ付
キ移轉ノ
効果

サル株券ノ讓與ハ何等ノ効驗モナキカト云フニ決シテ然ラス組合解散ノ結果及ヒ讓受人ヨリ組合ニ向ヒ決算ヲ求ムル權利等ニ關シテハ多少其影響ヲ生スルモノナリ

第一、解散ノ結果ヲ生スルニ付株權讓渡ノコトヲ云ハンニ無期組合ノ場合ニ於テハ組合員ノ一人カ株權ヲ他ニ讓レハ其讓渡ノ爲メ組合解散ヲ來スモノ、如ク又之ニ反シ有期組合ノ場合ニ於テハ讓渡ノ爲メ解散ノ結果ヲ來サ、ルモ他ノ組合員ハ之レヲ理由トシテ解散ヲ主張スルノ原由ト爲ルコトアリト云フ是レ然レトモ未タ判例アリテ定リタルモノニアラサルカ故ニ株權讓渡ノ爲メニ組合解散ノ結果ヲ來スカ否ハ未タ一定ノ判例ヲ見サルナリ

第二、組合ノ一人ハ已レノ株高ヲ他人ニ讓リ依テ以テ其讓受人ヲ組合ニ加入セシムルヲ得サル可キモ若シ現ニ仲間ノ承諾ヲ經ス株高ヲ

讓渡シタルトキハ讓受人ハ如何ナル權利ヲ得ルヤト云フニ其權利ハ
 只組合決算ノトキハ其讓受ケタル株高ヲ得ルニ過キサルモノトス故
 ニ譬ヘハ讓受人ヨリ株券ヲ讓受ケタルコトヲ組合ニ通知スルモ其通
 知ノ爲メニ其時ヨリ株高ヲ確カムルヲ得スシテ組合ハ依然トシテ營
 業ヲ繼續シ通知後ニ生スル所ノ責任ヲ尙其株高ニ負ハシムルコトヲ
 得ヘシ故ニ讓受ヲ通知スルモ爲メニ株高ヲ其時ニ確定スルヲ得サル
 モノトス而ラハ讓受人ハ組合ニ對シ決算ヲ要求シ己レノ讓受ケタル
 株高ヲ受取ラント主張スルコトヲ得ルヤト云フニ是亦一定ノ判例ナ
 キカ如シ

賠償ヲ得ル權利ヲ論ス

凡ソ他人ノ爲メニ損失ヲ被ルトキハ其損失ノ賠償ヲ受クルノ權アル
 コトハ敢テ言ヲ待タサルコトナレトモ賠償ヲ受クルノ權利ハ必スシ

賠償ヲ得
 ル權利ヲ
 論ス

賠償ヲ受
クヘキ權
利

此權利ハ
必スシモ
契約ヲ豫
想セス

モ契約ヨリ生スルモノト爲スヲ得ス時ニ契約ヲ待タスシテ此權利ノ
 生スルコトアリ然レハ賠償權アリヤ否ヲ決スルニハ必スシモ契約ノ
 存在スルコトヲ豫想スルヲ要セサルナリ組合ノ場合ニ於テハ總テ平
 等ノ權利ヲ有シ平等ノ義務ヲ負擔スルヲ以テ原則ト爲スカ故ニ組合
 員中ニ賠償權ノ生スルハ他ニアラス此原則ヨリ來ルニ外ナラサルナ
 リ之レヲ例セハ若シ數人共擔ス可キ損害ヲ一人ニテ引受ケタルトキ
 ハ他ヨリ其割前ノ賠償ヲ受クルハ當然ノコトニシテ土地ノ共有者ノ
 一人カ土地ヲ修覆シ因テ破壊ヲ防キタルトキハ其修繕費ハ共有者間
 ニ分擔セサル可カラス又一ノ負債ヲ保證スル保證人中ノ一人カ辦償
 ノ義務ヲ盡シタル時ハ保證人間ヨリ後割前ノ賠償ヲ受クルノ權アル
 可ク又航海中波難ニ出合ヒ船體ヲ輕クスル爲メ止ヲ得ス積荷ノ幾部
 ナ海中ヘ投シタルトキハ其荷主ハ船舶全体ノ爲メニ己レノ貨物ヲ犧

契約ヲ以テ賠償權ヲ除去スルコトアリ

牲ニ供シタルモノナレハ其損害ハ總テ船主其他ノ荷主等凡テ船舶ノ運命ニ利害ヲ及ホスモノヨリ割前ヲ求ムルノ權利アル可キナリ必竟此等ハ元ト契約アリテ生スル所ノ賠償權ニハアラス唯他人ノ損害ヲ以テ己レヲ利スルヲ得ストノ原則ヨリ胚胎シ來リシ所ノモノナリ夫レ斯ノ如ク賠償權ハ契約ヲ待タスシテ發生スルコトアル可キモ亦契約ヲ以テ此賠償權ノ發生ヲ止ムルコトヲ得ヘキナリ故ニ豫メ賠償ヲ爲サ、ル可シト約スル如キコトアレハ爲メニ賠償權ヲ生セサルコトアル可キナリ又賠償權ハ詐欺ノ爲メニ妨止セラル、コトアル可キナリ譬ヘハ人ヲ詐キ組合ヘ加入セシメタル如キ場合ニ於テハ欺罔セラレテ組合員ト爲リタル者ハ其組合ニ何程損失ノ生スルコトアルモ他ノ組合員ヨリ割前ヲ負擔セシメラル、ノ義務ナキナリ今組合員カ組合ヨリ賠償ヲ受クル權利ノコトニ付テ論究セントスル

ニハ先ツ代理人カ本人ヨリ受托者カ委托者ヨリ賠償ヲ受クル權利ニ
關スル原則ノ要領ヲ述ルヲ以テ最モ要用ナルコト、信スルカ故ニ先
ツ代理人ノコトニ付論センニ左ノ三箇ノ場合ニ區別スルコトヲ得ヘ
シ

第一 代理人カ本人ノ訓示通りニ事務ヲ執行シタルトキ

第二 代理人カ本人ヨリノ訓示ニ違背シタルトキ

第三 代理人カ本人ヨリ何等ノ訓示モナキニ勝手ニ取計ヒタル

トキ

第一ノ場合ニ於テハ別ニ論スルマデモナク代理人カ本人ノ言付ケ通
リニ事務ヲ執行シ因テ損失ヲ被リタルトキハ凡テ其損失ハ本人ヨリ
賠償ヲ受クルノ權アル可キナリ此場合ニ於テハ設ヒ其事柄違法ニ屬
シタルトキト雖モ代理人ニ於テ本人スラ之レヲ爲シ得サル違法ノ所

爲ナルコトヲ知ラスシテ執行シタルトキハ猶其所爲ノ違法ナルニモ
 拘ハラズ賠償ヲ受クルコトヲ得ヘキナリ
 第二ノ場合ニ於テハ之レニ反シ本人ノ訓示ニ背キ爲シタル代理人ノ
 所爲ニ付テハ設令何程ノ損失起生スルモ之レヲ本人ニ要求シ得サル
 ハ勿論ノコトナリトス此場合ニ於テハ設ヒ本人カ事實ノ錯誤ヨリシ
 テ一ノ訓示ヲ爲シ代理人其錯誤ナルコトヲ知ルカ故本人ノ爲メ誠意
 ニ他ノ方法ニ依リ執行シタル時 則チ訓示ニ違背シタル時ヲ云フ ト雖モ尙之レヨリ生
 スル賠償ヲ得ルノ權ナキモノトス是レ蓋シ代理人ハ本人ノ訓示ニ從
 フノ義務アルノミニシテ之レニ反スルノ權利アラサレハナリ然レト
 モ本人カ代理人ノ權外ノ所爲ヲ追認シタルトキハ其追認ノ爲メニ其
 所爲ハ當初ニ汙リ恰モ本人カ命シテ爲サシメタルコト、同様ノ有様
 ニナルカ故ニ其時ハ更ニ賠償ノ權利ヲ生スルナリ何トナレハ本人ハ

代理人ノ爲シタル行爲ニ付己レノ利益ニ關スル部分ノミチ追認シテ
己レノ負擔ニ販ス可キ部分ヲ除キ去ルヲ得サレハナリ
又既ニ代理人カ本人ノ命令ニ從ヒ事務ヲ執行シ由テ第三者ニ對シ法
律上ノ義務ヲ帶ヒタル後ハ設ヒ本人ヨリ其事務ノ停止ヲ命セラル、
コトアルモ之レニ拘ハラス其事ヲ完結スルコトヲ得ヘシ是レ本人ト
代理人トノ間ニアリテハ代理人ハ凡テ何事ニ拘ハラス本人ノ命令通
リニ進退ス可キモノナレトモ既ニ事第三者ニ渡リ將サニ代理人ノ身
上ニ義務ヲ負ハントスル際ニ於テハ此義務ヲ免カル、ニ必要ナル丈
ケハ本人ノ命令アルモ尙之レニ背キ事務ノ執行ヲ續クルノ自由アル
可キナリ
第三ノ場合ニ於テ代理人カ本人ノ命令モナキニ働キタルトキハ是レ
代理人勝手ノ仕事ナレハ其ヨリ如何ナル損害ヲ發生シ來ルモ之レヲ

本人ニ對シ要求スルコトヲ得サルハ勿論ノコトナリトス
 然レトモ此場合ニ於テモ前述スル所ノ追認ヲ以テ總テノ責ヲ本人ニ
 歸セシムルコトヲ得ヘキナリ
 又代理人ハ殊ニ本人ヨリ訓示ヲ明ニ受ケサルモ其事柄ノ性質及從來
 ノ慣行世間ノ振合等ニ由リ暗黙ノ訓示ヲ與ヘラレタルモノト見ナサ
 レ其實本人ノ命令セサルコトヲ執行シタルトキニ於テ猶賠償ヲ受ク
 ルノ權アルコトアリ個ハ代理人ノ權利ノ區域判然セサル場合ニ於テ
 代理人カ相當ト認ムル所ヲ執行シタル場合ノ如キヲ云フナリ
 此ニ一ノ難問アリ即チ他人ノ爲メニ依頼モ受ケス又命令ヲモ受ケス
 全ク自己ノ量見ノミニテ他人利益ノ爲メニ一事ヲ行フタルトキハ其
 報酬ヲ求ムルヲ得ルヤ否ノ一事ナリ英國法律ニ由レハ他人ノ依頼モ
 ナキニ他人ノ事務ヲ取扱ヒタル者ハ寧ロ之レヲ恩惠ノ所爲ト見ナシ

法律上ノ賠償ヲ許サ、ルモノ、如シ唯其例外トス可キ場合ハ

第一 數人共ニ受ク可キ危難ヲ避クル爲メ其内ノ一人カ損失ヲ

醸シタルトキ

第二 他人カ法律上ノ義務ヲ帶ヒテ之レヲ盡ス可キ時ニ盡スコ

トナ得サルニ際シ之レヲ代辦シタルトキ

右二箇ノ場合アリ第一ノ場合ハ既ニ論シタルコトナルカ第二ノ場合

ハ彼ノ遺產管理人カ葬式ノ入費ニ付テハ設ヒ他人カ無斷ニ營ミタル

時ト雖モ之レヲ償フノ責アル如キ場合ナリ故ニ一般ノ原則ヲ云ヘハ

凡ソ人ノ事務ニ關與シ何程利益ヲ與フルモ其依頼ナクシテ爲シタル

以上ハ利益ヲ與ヘタルノ故ヲ口實トシテ賠償ヲ要求スルヲ得サルモ

ノトス此場合ノ判例ヲ掲ケンニエドミシト³ン訴ライトノ訴訟事件ヨ

リ著名ナルモノハナシ其事實ヲ掲ケンニ被告人ハチヨウルジヤ州及

Trustee
Cstui que Trust.

ヒジヤメーカニ於テ或ル財産及ヒ黒奴ヲ所有セリ原告人ト組合ヲ爲
ス所ノ一人ハ被告人ノ代理人ニシテ總テ被告人ノ此等ノ財産ヲ管理
セリ然ルニジヤメーカニアル所ノ黒奴ヲヂヨウルジヤ州ニ向ケ運漕
スル際船長ニ不都合ノ廉アリシ爲メ右黒奴ハ税關吏ノ手ニ取押ヘラ
レタリ原告人ハ取押ヘラレタル黒奴ノ放免ヲ受ケンカ爲メニ一千二
百磅ノ金ヲ官ニ支拂ヒタリ依テ差押ヘラレタル黒奴ハ解放セラレ首
尾能ヂヨウルジヤニ到着スルコトヲ得タリ此ニ於テ原告人ハ右ノ金
額ノ賠償ヲ被告ニ向ケ要求シタリ裁判所ハ此要求ニ對シ此支拂タル
ヤ原告カ自己限りノ景見ニテ爲シタルコトニテ毫モ被告ノ依頼シタ
ルコトニアラサレハ賠償ヲ求ムルノ權ナシト判定セラレタリ
此ヨリ信任受託人カ委託人ヨリ受クル所ノ賠償權ニ付テ論センニ別
ニ代理人ノ場合ト異ナルコトアラサルモ總テ受託人ハ受託ノ事務ヲ

執行スル爲メニ正當ニ費シタルモノハ悉ク之レカ賠償ヲ受クルノ權アリトス

之レニ反シテ信任受托ノ義務ヲ怠リタルヨリ生スル所ノ損害ハ委託者ノ追認ナキ限りハ凡テ之レヲ求ムルヲ得サルモノトス之レヲ要スルニ受托者ハ其信任ノ受托物件ヲ處分スルニ缺ク可カラサル必要アリテ釀シタル損害ニ付テハ之レヲ要求スルノ權アルモノナリ蓋シ如何ナル所爲カ受托物件ヲ處分スルニ缺ク可カラサル所爲ナルカヲ決スルニハ委託人ノ特命アルトキハ別ニ論ナシト雖モ特命ナキ時ハ其物件ノ性質信任委託ノ方法等ニ由リ法律上相當ノ推定ヲ爲ス可キモノナルコトハ恰モ代理人ノ權限明確ナラサルトキ從來ノ慣行世間ノ振合事柄ノ性質等ニ由リ之レヲ決スルト同様ノコトナリトス

第貳拾回

組合員賠償權ヲ論ス

組合員賠償權ノコト

賠償ニ關スル組合員ノ地位

賠償ニ關スル組合員ノ地位

Directors of Companies.

商社ノ支配地位

是ヨリ組合員カ相互ノ間ニ於テ賠償權ノ行ハル、コトヲ論ゼンニ先ツ組合員ハ一人ニテ本人タリ代理人タルノ資格ヲ或ル程度ニ至ルマテ有スルモノトノコトニ注目セサル可カラス故ニ組合員ハ組合ノ負債及ヒ取引ニ付キ世間ニ對シ本人トシテ其責ヲ負フコトアリテ若シ一人ニテ之ヲ尽シタルトキハ他ノ組合員ヨリ賠償ヲ受クルノ權アルモノトス蓋シ一人ニノミ負擔ヲ歸セシムルヲ得サル組合員互ノ義務アルカ故ナリ又各組合員ハ組合ノ代理トシテ働クガ故ニ組合ノ爲メニ相當ノ職權内ニ於テ行フタル事柄ニ付損失又ハ入費ヲ醸ストキハ其賠償ヲ組合ヨリ請求スルコトヲ得ルナリ之レニ反シ若シ組合員カ己レノ怠慢不熟練又ハ越權ナドニヨリ損失ヲ被リタルコトアルモ組合ニ對シテ之レヲ求ムルヲ得サルハ勿論ノコトナリトス

商社ノ支配人モ亦組合員ト同シク商社ノ社員即チ本人タル資格ヲ以

テ商社ノ爲メニ支拂フタル負債ニ付テハ其賠償ヲ受クルノ權アリ商社ノ代理人又ハ信任委託者即チ支配人タルノ資格ヲ以テハ其委託上醸シタル所ノ入費及ヒ損失ニ付商社ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ得ヘキナリ然レトモ又支配人タル者其職權ヲ越ヘ爲メニ損失ヲ起スコトアルモ此等ノ損失ハ商社ノ追認スルニアラサル以上ハ決シテ賠償ヲ求ムルヲ得サルナリ但此組合ト雖モ數人ノ支配人アル場合ニ於テ一人ノ支配人カ他ノ支配人ヨリ賠償ヲ受クルハ自ラ別問題ニシテ假令越權ノ所爲ナリトモ一人カ他ノ同役ノ承諾ヲ經テ爲シタルトキハ其損失ヲ商社ヨリ求ムルヲ得サル可キモ同役中ヨリ賠償ヲ受クルハ此限ニアラサルナリ

此等ノコトニ關スル判例ハ次ニ講述セシカ之レニ先立チ商社ノ支配人カ誠意ニ充分ノ注意ヲ加ヘテ商社事業ノ爲メニ金圓ヲ費用シタル

トキハ假令其支配人ハ金圓借入ノ權ナク支配人ノ借入レタル金圓ニ付テハ商社其責ニ任セサル場合ト雖モ尙支配人等ニ對シテハ商社ヨリ其支出金ヲ賠償スルノ義務アルヤ否ノ場合ニ付論述セントス此事項ノ判例ヲ舉クレハ「シヨルマンマイニンゴコンパニト」ノ訴件ニシテ其事實ノ概畧ヲ舉クレハ茲ニ鑛山ヲ營業トスル一社アリ鑛山ノ破壊ヲ防キ保存ヲ計ラントスルニハ是非トモ採鑛ノ事業ニ着手セサルヲ得サル場合ニ際シ其支配人ハ金圓借入ノ權力ヲ有セサルニモ拘ハラズ他ヨリ金圓ヲ自己ノ名義ニテ借入レ其金ヲ以テ採鑛ニ着手シ僅ニ鑛山ノ破損ヲ防キタリ株主ニ於テハ此等支配人ノ處置ヲ見聞シタルトモ當時何等ノ故障ヲモ言ハカリシ其判決ニ商社ハ右支拂人ノ借入レタル金額ヲ支配人ニ辨償スルノ義務アリト判定セラレタリ又或訴件ニ於テハ商社ノ定款中金圓借入ノトキハ社ノ所有ノ土地ヲ抵當ト

爲ス可シトアリテ單ニ支拂人ニ金圓借入ノ權ヲ許サ、ルニモ拘ハラ
 ス支配人ハ或銀行ヨリ金圓ヲ借入レ社ノ事業ニ使用シタル場合ニ於
 テ其金圓ハ社ヨリ支配人ニ辨償ス可キモノナリト判定セラレタリ
 此等ノ判決ハ其理由トスル所支配人ハ獨リ商社ノ代理人タル資格ヲ
 有スルノミナラス尙信任委託者タルノ資格ヲ俱有スルカ故ニ其委託
 ノ範圍内ニ於テ商社ノ爲メニ誠意ニ金圓ヲ借入ル、如キハ正當ニ爲
 シ得ヘキコトニシテ固ト商社ハ金圓借入ノ權ヲ支配人ニ任セザルカ
 故ニ貸主ニ向ヒ直チニ其義務ヲ負ハサルモ支配人ニ對シテハ賠償ノ
 義務ヲ盡サ、ル可カラスト云フニ在リ然レトモ此理由ハ果シテ法律
 上其當ヲ得タルモノナリヤ否ニ付テハ少シク疑ナキ能ハス
 抑、已ニ代理人トシテ越權ノ所爲ナラハ何故ニ信任委託者トシテモ仍
 ホ越權ニアラサルカ是レ解シ難キノ一點ナリトス又何故ニ株主即チ商

社ハ其責任ノ定限ヲ立テシテカ爲メニ特ニ支配人ノ權限ヲ規定シ置キタルニ支配人ハ之レニ背キ其權限ヲ越ヘ株主ノ許サ、ル借金ヲ爲ス如キハ之レヲ委托ノ義務ニ背キタルモノト云フヲ得サルカ果シテ前ノ理由ヲシテ其當ヲ得セシメハ株主ハ何程其責任ノ制限ヲ立テントスルモ支配人ニ對シテハ更ニ其甲斐ヲキカ如キ不都合ヲ見ルニ至ラシ是レ決シテ取ル可キノ理ニアラサルナリ然レトモ前ノ理由ノ外尙之レヲ確カムル說ニ曰ク凡ソ支配人ノ支出シタル金圓ノ爲メニ商社利得ヲ受クルニ於テハ其恩波ハ自然ニ株主ニ及フカ故ニ若シ亦不幸ニシテ損失生シタルトキハ株主ニ於テハ此損失ヲ負擔ス可キハ正當ナラスヤ然レトモ是レ皮想ノ見ニシテ未ダ以テ盡シ得タル說トナスヲ得ス何トナレハ支配人ハ株主又ハ商社ノ承諾ヲ經テ支出シタルコトナレハ此事ヲ承認スルト否トハ商社又ハ株主ノ權内ニシテ決シテ

支配人ヨリ其許否ヲ強ユ可キモノニアラサル可シ故ニ株主カ支配人ノ所爲ヲ認許シ得ルノ餘地アルニモ拘ハラズ之レヲ認許セサリシヨリシテ法律上恰モ株主カ認許シタルモノト見做ス可キ場合ヲ除クノ外ハ商社又ハ株主ニ利得ヲ與ヘタリトノ理由ヲ以テ其賠償ノ責任ヲ負ハシムルヲ得サル可キナリ但若シ其利得ニシテ一旦商社ニ入りタル後ハ之レヲ分離ス可カラサルモノナレハ其分離ス可カラサル利得ハ之レヲ生ミ出シタル支配人へ賠償ス可シト一ノ理由アルノミ他ニ適當ノ理アルヲ見サルナリ要スルニ支配人コシテ金圓ヲ借入ル、ニアラサレハ商社ノ事業ヲ繼續シ能ハサルモノト認メタルトキハ其事由ヲ告ケテ親シク株主ト協議セサル可カラス唯商社ノ爲メ利益ヲ得ルノ目的ニテ誠意ニ爲スコトナラハ何事タリトモ之レヲ爲シテ株主等ニ無限ノ責任ヲ負ハシメントスルカ如キハ決シテ法律ノ當ヲ得

組合法

損失ノ起
生セサル
前ニ於テ
モ賠償ノ
權アリ

タルモノニ非サルナリ
賠償ヲ得ルノ權利ハ獨リ現實損害ヲ被リタルトキニ於テ始メテ執行
シ得ヘキモノニアラス猶既ニ損失ヲ受ク可キノ地位ニ立チタルモノ
ハ未タ實際ニ之レヲ被ラサルモ豫メ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ
例ハ英國法律ニ依レハ保證人カ本人ニ代リ辨償ヲ爲スノ義務ハ負
債主タル本人義務ヲ怠リタルトキニ於テ既ニ發生セルカ故ニ若シ債
主ヨリ保證人カ辨償ノ請求ヲ受ケタルトキハ保證人ハ未タ實際ニ辨
償セサルモ一方ニ向ヒ負債主本人ニ對シテ賠償ノ求メヲ爲スコトヲ
得ヘキナリ又之レヲ組合又ハ商社ノ場合ニ付テ例センニ組合員又ハ
商社ノ支配人ハ組合又ハ商社ノ爲メニ自己ノ名義ヲ用ヒテ金圓ヲ借
入レタルトキハ未タ實際ニ其金圓ヲ債主ニ對シ返濟セサル前ト雖モ
豫メ組合又ハ商社ニ對シ賠償ヲ求メ得ヘキナリ又他人ノ爲メニ株券

各自ノ割前高

チ所有スル名義人募集ニ逢ヘハ未タ募集金ヲ拂ハサル前ト雖モ猶ホ豫メ眞ノ所有者ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ又數人割前チ出ス可キ場合ニ於テ内一人己レノ割前チ出ス能ハサルモノアリトキハ他ノ者ニ於テ之レヲ償ハサル可カラス例ヘハ甲乙丙丁四人ノ負債主ノ内ニテ甲一人借金ノ全額ヲ皆濟シタルトキハ甲ハ乙丙丁三人ニ向ヒ各其割前チ要求シ若シ右三人ノ内乙カ己レノ割前チ出ス能ハサルシトキハ甲ハ丙丁ニ對シ全額ノ三分ノ一ツヲ出サントチ求メ得ヘキナリ是ト同一ノ理ニ基キ組合ノ場合ニ於テ一例チ舉ケンニ四人ヨリ成立スル處ノ組合ノ一人ナル甲組合ノ負債ヲ辨償スルニ付キ己レノ割前分ヲ出ス爲メ或ル物件ヲ差出シ置キタルニ他ノ組合員ノ中其割前チ出スコトヲ得サルモノアリシ爲メ其物件ヨリ甲ノ割前分チ引去リタル外ニ仍ホ他ノ組合員ノ割前高ニ對シ組合ヘ受

商社解散
ノ場合

違反者間
ノ賠償

There is no contribution
amongst wrong-doers.

取ラル可キモノト判定セラレタルコトアリタリ商社ノ場合ニ於テモ
 之レト同シク若シ株主ノ責任無限ナレハ商社解散ノ時ニ於テハ各株
 主ハ己レノ割前ヲ出シタル外ニ仍ホ商社ノ負債ヲ辨償シ終ルマテハ
 其責任ヲ免ル、能ハス
 法律ノ違反者間ニハ互ニ賠償ヲ受クルノ權ナシトノ法律ノ格言ニ付
 テ一言センカ組合ノ場合ニ於テハ此格言ヲ適用スルニ付稍ヤ注意ヲ
 加ヘサル可カラス抑組合ノ目的其レ自身ニ於テ違法ナルトキ例ヘハ
 禁制物賣買ヲ營業ト爲ス組合ノ如キモノナレハ其組合ノ組織上全体ニ
 於テ法律ノ許サ、ル所ヲ以テ營業ノ目的トナシ居ルカ故ニ設ヒ組合
 員中其營業上ニ何程ノ金錢ヲ支出シ居ルモノ又ハ何程ノ損失ヲ營業
 上蒙リタルモノアルモ其割前ヲ他ノ組合員ヨリ要求スルノ權利ナキ
 ヤ勿論ナレトモ若シ夫レ組合營業ノ目的タル敢テ法律ニ背カス適法

組合員ノ
場合ニ格
言ノ適用

ノモノナリシモ唯營業中法律ニ觸ル、如キ所爲アリ其所爲タル組合
ニ責任ヲ歸セシムヘキモノニシテ爲メニ之レニ關セサル組合員ノ一
人カ損失ヲ被リタルトキノ如キハ其損失ハ組合ヨリシテ賠償ヲ求メ
得ヘキハ當然ノコトナリトス故ニ組合員カ組合ヨリ賠償ヲ受クルノ
權ハ賠償ノ起因ト爲ル可キ所爲カ法律違犯ノモノナリト雖モ組合營
業ノ目的違法ナルカ又ハ賠償ヲ求ムル所ノ組合員自身ノ所爲ニ由リ
起リタル損害ニ非サル以上ハ唯其所爲ノ違犯ナルコトノミヲ以テ賠
償權ヲ沮絶スルヲ得サルモノトス蓋シ組合營業ノ目的違法ナルトキ
又ハ損害ノ起因自己ノ所爲ニ基スルトキハ是レ則チ自ラ爲セル損害
ニシテ他ニ賠償ヲ求ムルノ權ナキハ勿論ノコトナリトス例ヘハ未ダ
英國ニ於テ海上保險ノ事業ヲ組合ニ於テ營ムコトヲ許サ、リシ時ノ
例ニ付テ一言スレハ法律ニ背キ組合ニテ海上保險ノ事業ヲ營ミ組合

員ノ一人カ營業上保險金ヲ拂ヒ出シタルコトアルモ其保險金ハ組合ニ對シ賠償ヲ求ムルヲ得サルナリ然レトモ組合營業ノ目的其レ自身ハ違法ナラス又賠償ヲ求ムル所ノ組合員違犯ノ所爲ナルコトヲ知ラカリシトキハ設ヒ損害ノ起因違犯ノ所爲ニ基ヒスルモ元ト誠意ニ組合ノ爲メニ事ヲ爲シ因テ損失ヲ被リタルコトナレハ設ヒ其事柄法律ニ觸ル、モ猶賠償ヲ組合ニ對シ求ムルノ權アル可キナリ

例ヘハ藥種營業ヲ爲ス組合員ノ一人カ法律ニ背キ激藥ヲ賣渡タル爲メ罰金ヲ科セラレ其罰金ヲ其情ヲ知ラサル組合ノ他ノ一人カ拂ヒタルトキノ如キハ後組合ニ對シ其賠償ヲ求ムルヲ得ヘキナリ又商社カ資本金高法律ニ規定シタル募集高ニ至ラサル中ニ營業ヲ始メタル場合ニ於テモ株主ハ尙其社ノ負債ニ對シ責任ヲ負フヘキモノナリト判決セラレタルコトアリ

以上述ル所ハ組合員中其情ヲ知ラサルモノアリテ悉ク違反者ナリト
 スルヲ得サル場合ニ付テノコトニシテ別ニ難ス可キ程ノ事項ニアラ
 サルモ若シ組合員一同カ共ニ違反ノ所爲ナシタルカ又ハ共ニ不注
 意アリタル場合則チ組合全体ヲ難スヘキ場合ニ於テモ相互ノ間ニ賠
 償權ノ存スルヤト云フニ此點ニ付テハ裁判例曖昧トシテ更ニ一定ノ
 區畫ヲ立ルヲ得サルモノ、如シ或ハ斯ル場合ニハ賠償ノ權ナシト判
 定セラレタルコトアリ又或ハ斯ル場合ト雖モ其所爲刑避ニ觸ル、カ
 又ハ營業ノ目的自身ニ於テ違法ナルトキヲ除クノ外ハ凡テ一人ノ受
 ケタル損失ハ全員ニ於テ賠償スヘキモノト判定セラレタルコトモア
 ルナリ故ニ一定ノ判決例ナキカ如シト雖モ唯組合員全体カ或ハ信任
 委託ノ義務ヲ誤リタル爲メ其一人カ損害ヲ支拂ヒタルトキノ如キハ
 組合計算ノトキニ於テ現實損金ヲ拂フタル組合員ハ他ノ組合員ヨリ

賠償ヲ受クルコトヲ得ヘキナリ

第貳拾壹回

組合員ハ勞力ニ對シ報酬ヲ得ルノ權利アリヤト云フニ殊別ノ契約アリ
 ニハ報酬ヲ求ムルノ權利アリ
 ナルモノトナスヲ得
 組合員ハ勞力ニ對シ報酬ヲ得ルノ權利アリヤト云フニ殊別ノ契約アリ
 ルニ非サル以上ハ各自報酬ヲ得ルノ權利ハ之レナキモノト見做スナ
 リ故ニ組合員ハ組合ニ向ヒ特別勉勵ノ簾ヲ主張シテ報酬ヲ得ント求
 ムルコトヲ得サルナリ例ヘハ組合員ノ一人カ組合ノ爲メニ物品ヲ賣
 買スルコトアルモ其手数料ヲ組合ヨリ要求スルコトヲ得サル如キ是
 ナリ
 要スルニ組合員ノ勞力ハ其間何程ノ優劣アルモ前以テ取極メ置クニ
 非レハ報酬ヲ受クルノ權利アルモノトナスヲ得サルナリ蓋組合カ德
 義上組合員ニ對シ慰勞金ヲ與フル如キハ通例ノ事柄ナレトモ此等ハ
 德義上ノ範圍ニ於テ論ス可キコトニシテ敢テ法律上ノ權利トシテ之

組合員間
 ニハ報酬
 ヲ求ムル
 ノ權利アリ
 ナルモノト
 ナスヲ得
 ス

組合員中特
 別勉勵ノ
 モノニ慰
 勞金ヲ與
 フル德義
 上ノ責アリ

ナ望ミ又ハ望マル可キコトニアラス若シ組合ニ於テ組合員中何程事
 務ニ勉勵シタルモノアルモ其成績ヲ顧ミス毫モ徳義ヲ重セスシテ報
 酬ヲ與フルコトナキニ於テハ其勉勵シタル組合員ハ唯組合ニ向ヒ徳
 義ノ薄キコトヲ責ムルニ止マリ法律上權利ノ要求ヲ爲シ得サルカ故
 ニ斯ノ如キ場合ニハ徳義缺クレハ法律之レヲ補充セサルナリ然レト
 モ組合員ハ通例組合事業ニ各従事ス可キモノナルカ故ニ若シ組合ノ
 一人事務ニ怠リ爲メニ他ノ組合員ヲシテ之レニ代ラシムル如キ事ア
 レハ個ハ別段ノコトニシテ則チ代テ事務ヲ取扱ヒタル組合員ハ利益
 分配等ノトキ其事ヲ主張シテ其レ丈ケノ割前ヲ要求スルコトヲ得ヘ
 キナリ是レ組合員カ當然爲ス可キ事務ヲ怠リ他組合員ヲシテ之レニ
 代ラシメタレハ其代リタル組合員ハ其レ丈ケ餘分ノ利益ノ分配ヲ受
 ク可キハ固ト當然ノコトナレハナリ

解散後ハ
組合員タ
ルノ分限
茲ニ消滅
ス從テ報
酬ヲ受ク
ルノ權アリ

Company

組合員カ
組合營業
ノ爲メニ
支出シタ
ル金ハ組
合ヨリ其
償却ヲ受
クルノ權
アリ

然レトモ以上述ル所ハ組合營業中ノコトニシテ組合解散後ノコトヲ云フニアラス解散後ハ最早組合ノ成立ナキカ故ニ組合員中殘務取纏メノコトヲ引受ケ働キタルモノハ其レ丈ケノ報酬ヲ受ク可キハ當然ノコトナリトス例ヘハ二人ノ組合アリテ一人死去シタル爲メ組合ノ解散シタルトキ生存者カ殘務ヲ取纏ムルニ付キ盡力シタルニ於テハ決算ノ場合ニ至リ右取纏ニ對スル報酬ヲ計算中ニ加フルコトヲ得ヘキナリ

商社ノ場合ニ就テ此事ヲ論センニ商社ノ創立委員ハ互ニ報酬ヲ要求スルノ權利ナキモノトス然レトモ商社設立ノ後其規則書ニ創業入費支拂ノコトヲ記入シアルニ於テハ其規則書ニ基キ商社ヨリ創業中ノ盡力ニ對スル報酬ヲ要求シ得ヘキナリ

以上ノ如ク組合員又ハ商社創立委員ノ勞力ニ對シ報酬ヲ要求スルノ

權利ハ通例之レナキモノナレトモ組合員カ組合營業ノ爲メニ其利益
ヲ計ラント誠意ニ費シタル金圓ハ之レヲ組合ヨリ要求シ得ヘキモノ
トス又組合員カ組合ノ負債ヲ拂フ爲メニ支出シタル金ハ組合ヨリ其
償却ヲ受ケンコトヲ要求シ得ヘキモノナリ例ハ組合ノ爲メニ組合員カ
己レ一人ノ名前ニテ他ヨリ金圓ヲ借入置キ期日ニ至リ其組合員ヨリ
返済シタル時ハ後キ之レヲ組合ヨリ受取ルコトヲ得ヘキナリ又其支
出金カ見込ニ反シ更ニ何等ノ利益ヲモ組合ニ與ヘサリシトキト雖モ
一度組合ノ承諾ヲ受ケテ支出シタルモノナル以上ハ尙要求シ得ヘキ
ナリ譬ヘハ組合ヨリノ依頼ヲ受ケ組合ノ一人カ或ル株券ヲ買取リタ
ルニ其株券ハ全ク價值ナキモノナルコトヲ發見シ組合ニ於テ大ニ損
耗ヲ被リタルトキト雖モ尙組合員ハ其株券ヲ買入レタル代金ヲ組合
ヨリ要求スルコトヲ得ヘキナリ之レニ反シテ設ヒ何程有用ナル支出

ト離モ組合ノ承諾ヲ經ス一ノ專斷ヲ以テ支出シタル金ハ組合ヨリ要求スルコトヲ得ス又如何ニ有用ナリトモ組合當初ノ契約ニ抵觸スル如キ支出ハ亦其效ナキモノナリ譬へハ二人ノ組合アリ其一人カ營業ヲ隆盛ナラシメント欲シ得意先キノモノヲ響應スル等種々ノ交費ヲ支出シ之レヲ其都度組合ノ帳簿ニ記入シ置カス後チ組合決算ノ時ニ於テ其金額ヲ要求シタレトモ裁判所ニ於テハ如斯交際費ハ組合契約當初ノ趣旨ニ反スルノミナラス更ニ斯ルコトヲ爲シ得へシトノ默諾アリトナスヲ得サルモノナリトシ其要求ヲ採用セサリシナリ又加之組合員カ組合ヨリ己レノ支出金ヲ要求セントスルニハ必ス其費途ヲ明細ニ計算シ之レヲ求メサル可カラス故ニ只組合ノ爲メニ支出シタリトノミニテ其使ヒ道ノ明白ナラサルモノ譬へハ機密費はノ如キハ之レヲ要求スルヲ得サルナリ又組合員ヨリ組合へ支出スルト同シク組

合ヨリ組合員へ利益配當ノ外ニ利得ヲ與フルノ結果ヲ來タス等ノコト往々之レアルナリ譬へハ組合員所有ノ家屋或ハ土地ヲ組合ニ於テ使用シ居リ營業中修繕ヲ加ヘタルトキノ如キハ若其儘ニ組合員へ返却スレハ組合員ハ組合へ物品ヲ貸與へテ却テ利益ヲ得ルニ當ルカ故ニ其修覆ノ爲メニ改良シタル分丈ケハ組合員ヨリ組合へ勘定ヲ立テ然シテ後ニ其家屋又ハ土地ヲ受取ラサル可カラズ今其判例ヲ舉ゲンニボムルドン訴バルグシ事件ニシテ其要領ハ組合ノ一人カ所有スル所ノ地所ヲ組合ノ營業上ニ使用中其組合ノ事務員ニ於テ此組合ハ或ル年間繼續スルモノト誤認シ該地内ニ井戸ヲ堀リタルニ該組合ハ固ト無期限ナリシヲ以テ俄然解散シ其地所ハ其所有人へ返却スルコトナリタレトモ井戸ヲ堀リタル爲メ地所ハ大ニ其價格ヲ増シタルカ故其改良シタル分丈ケハ代價ニ見積リ所有者ヨリ組合へ勘定ス可キ

組合員間
ノ計算ニ
利息ヲ付
スルコト

モノナリト判定セラレタリ
 組合ノ負債及ヒ損失ハ格別ノ證據ナキトキハ利益分配ト同シク凡テ
 平等ニ負擔ス可キヲ以テ通則トスレトモ兼テ此事ニ付約束ヲ設ケ其
 分擔ノ割前ヲ定メ置クヲ以テ商業上ノ習慣トズルナリ
 組合營業ニ關シ最モ常ニ起ル所ノ問題ハ利息ノコトナリ夫レ利息ナ
 ルモノハ契約ヲ待テ始メテ生スルモノナリヤ又ハ金圓貸借其他差引
 勘定ニハ自然ニ利息ヲ附ス可キモノナリヤ未タ一定ノ說アルヲ見サ
 レトモ英國習慣法ニ由レハ格段ナル商業上ノ習慣又ハ特約ナキ以上
 ハ法律ハ利息ヲ附スルコトヲ許サ、ルモノト爲シ居ルナリ然レトモ
 組合營業ニハ常ニ利息ヲ附スルヲ以テ商業上ノ慣例ト爲スモノ、如
 シ故ニ組合營業ノ勘定ニ利息ヲ附スルヤ否ハ其組合固有ノ習慣營業
 ノ仕來土地ノ習慣事業ノ目的等ニ由リ之レヲ決セサル可カラス例ニ

ハ組合員カ組合ヨリ金圓ヲ借入レ又ハ組合へ金圓ヲ貸附ゲタル時ノ

利益ノ分配ヲ論ス

定期ノ利益分配ハ豫算ヲ以テス

ハ組合員カ組合ヨリ金圓ヲ借入レ又ハ組合へ金圓ヲ貸附ケタル時ノ如キハ大概利息ヲ附スレトモ其取引ノ性質ニシテ貸借ノ名義ニ由ラズ唯一時ノ引負勘定等ノトキハ之レニ利息ヲ附セサルコトニ爲リ居ルナリ要スルニ金圓ノ出納ニシテ貸借ノ名義ヲ以テセサルモノニハ先ツ利息ヲ附ケサルヲ例トスルナリ

利益ノ分配ヲ論ス

前回ニモ論スル如ク各組合員ノ株又ハ權理ノ價ハ組合ヲ解散シ精算ヲ爲シタル上ニアラサレハ到底之レヲ確ムルコトヲ得サルモノナレハ利益分配ノ如キモ眞ノ分配ハ解散ノトキ現實ノ損益精算ヲ立テタルトキニアラサレハ之ヲ爲シ得サルナリ然レトモ商業上ノ習慣トシテ先ツ豫算ヲ以テ定期ニ利益分配ヲ爲スコトヲ常トセリ故ニ其分配ハ唯株ノ名義上ノ價額ニ準シテ之レヲ爲スモノニシテ未ダ以テ利益

組合法

分配ト爲スヲ得サルモノト知ル可シ組合解散損益精算ノトキニ於テハ凡テ組合ノ有スル諸資産ヲ金額ニ引キ直シ其金額ノ中ヨリ諸負債ヲ支拂ヒ殘額ヲ利益トシテ分配スルモノナレトモ定期ノ豫算勘定ニ於テハ唯其期間ノ収入金ヨリ諸負債及諸入費ヲ支拂ヒ其殘額ヲ以テ利益分配ニ充ツルナリ配當金額ハ通例各組合員株高ノ名義上ノ價額ニ照シ之ヲ割出スヲ以テ通例ノ習慣ト爲シ居ルナリ而シテ其配當金額ヲ算出スルニハ先豫算ヲ立テ収入金ト支出金ノ割合ヲ見積リ其間ニ於テ相當ノ金額ヲ定ムルナリ然レトモ組合ハ元ト會社ノ如ク其規律ヲ嚴ニセサルカ故ニ利益分配ノ期日又ハ其額ノ如キモ其都度組合員協議ノ上之レヲ決定スルカ故其期日金額モ會社又ハ商社ニ比スレハ甚タ不規則ナルモノナリ例エハ會社商社ニ於テハ株主ハ利益分配ノトキハ先ツ其分配ヲ受ケサル可カラサルモ組合ニ於テハ組合員中

配當額ハ
多數ヲ以
テ決ス

ニハ他ノ組合員カ利益ノ分配ヲ受クルモ己レハ己レノ都合ニ由リ之
レヲ受ケス其儘組合ニ預ケ置等ノコト徃々之レアル可ク又會社商社
ニ於テハ分配ノ期日ニ至ラサレハ其分配ヲ受クルヲ得サレトモ組合
ニ於テハ組合員ノ都合ニ由リ其期日前ニ己レカ受ク可キ分配高ヲ見
積リ之レヲ引出スコトヲモ得ヘキナリ
利益分配ハ必ス金錢ニテ之レヲ爲サ、ル可カラス金錢外ノ物件ヲ以
テ利益分配ニ充ント強ユルコトヲ得サルナリ而シテ其配當額ヲ決定
スルノ權ハ大概組合員多數ノ決議ニ在ルナリ商社又ハ會社ノ場合ニ
於テハ支配人カ株式ノ相場ヲ上下セシメント試ミ時ニ或ハ非常ニ割
合ノ好キ利益分配ヲ廣告スルコトアリ又ハ非常ニ抵キ割合ノ分配ヲ
ナスコト徃々之レアリ此等ハ支配人等カ私利ヲ博セントノ詐欺手
段ニ出ルモノ多ケレハ如斯キ場合ニ於テハ裁判所ハ其分配ヲ差留ム

ルコトアル可キナリ
組合ニ於テハ各自合同ノ決議ニ出テタル上ハ如何ニ高額ナル利益ノ
分配ヲ爲スモ更ニ差支ナキノミナラス組合ヲ解散スルモ亦妨ナキモ
商社又ハ會社ニ於テハ夫レ々々ノ規律アルノミナラス其株主多數ナ
レハ其一致ヲ得ルコト難ク到底相當ノ金額ヲ分配スルヨリ外途ナカ
ル可キナリ
利益ノ分配ハ利益アツテ始メテ起ルモノ故先ツ其利益ノ何物タルヲ
定メサル可カラス即チ利益トハ収入金ノ支出金ニ超過シタルモノニ
外ナラサレハ若シ支出金カ収入金ニ超過スルカ又ハ相同シキ場合ニ
於テハ利益ノ分配ス可キモノナカル可シ然シテ天災又ハ其他ノコト
ヨリ非常ノ損失ヲ來シタルトキハ數年間ノ収入金ヲ以テ之レニ充ツ
ルモ或ハ引キ足ラサルコトアル可ク爲メニ數年間利益ノ分配ナシニ

〃 Ordinary Expenses.
 〃 Extraordinary Expenses.

組合ノ計
 算ヲ論ス

打過ルコトアラン故ニ如キコトナカラシムル爲メ支出金即チ支拂金ヲ二箇ニ區別シ第一種ヲ通常ノ支出第二種ヲ非常ノ支出トナス第一種ハ營業上常ニ支出スル所ノ通常入費ニシテ之レハ收入金ヨリ支拂ヲ爲シ第二種ハ火災ニカ、リ家屋ノ消失シタル爲メ其建築ニ要スル入費ノ如キモノニシテ之レハ收入金ヨリ直チニ支拂ハズ或ハ資本金又ハ積立金或ハ臨時ノ借入金等ヨリシテ之レヲ支拂ヒ置キ而シテ漸次每期ノ收入金ヨリ數度ニ理メ合ハスルコト、爲スナリ扱テ如何ナルモノヲ以テ通常ノ支出ト爲シ如何ナルモノヲ以テ非常ノ支出ト爲スカハ其事ニ付臨時組合員ノ多數決議ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘキナリ

第貳拾貳回

組合ノ計算ヲ論ス

組合法

組合ノ計算法ハ通例ノ簿記術ニ從ヒ之レヲ爲スヲ以テ習慣ト爲スモ
 ノナレハ今此ニ深ク説明スルヲ要セス唯決算ノ方法ニ付一言センニ
 損失ハ先利益ヨリ償却シ若シ利益ヲ以テ償却ニ充ツルモ足ラサルト
 キハ資本ヲ以テ之レニ充テ最後ニ各組合員ノ資産ニ及フ可キナリ今
 組合カ諸負債ヲ支拂フ方法ニ付順序ヲ立ツレハ則チ左ノ順序ニ從ヒ
 其支拂ヲ爲ス可キナリ

第一 組合ヨリ組合員ニアラサル者ニ對スル負債

第二 組合ヨリ組合員ニ對スル負債

第三 組合員ノ出シタル資本金

第四 第一第二第三ヲ拂ヒ了リテ剩餘アルトキニハ利益金トシ

テ之ヲ各組合員ニ平等ニ配當ス可シ

但シ配當額ニ付契約アルトキハ此限ニアラス

Ordinary Expenses
 Extraordinary Expenses

尙此ニ一言ス可キコトアリ前ニ掲クル順序ニ從ヒ第一ノ負債即チ社
 外ニ對セル負債ヲ支拂フタル後其殘額第二ノ負債即チ各組員ニ對
 スル負債ヲ支拂フ能ハサルトキハ其不足分ハ各組員ノ損失トナサ
 ルヘカラス然シテ此場合ニ於テ特別ノ證據ナケレハ各組員ハ一
 様ニ其損失ヲ分擔セサル可カラス例エハ第一ノ負債ヲ支拂フタル殘
 額五百圓アリトセンニ各組員ヨリ組合ヘノ貸金ハ左ノ比例ノ如ク
 ナリト假定セハ

甲	= 3	0	0
乙	= 1	0	0
丙	= 2	0	0
丁	= 4	0	0
戊	= 0		

此場合ニ於テ組合ガ各員ヨリ負フ所ノ負債ノ金額ハ一千圓ナリ然ル
 ニ此ニ殘額五百圓アルカ故ニ其殘額ヲ之レヨリ引去レハ全ク五百圓

組合法

二百二十一

ハ組合カ各員ニ對スル負債ニシテ各自ノ損失ニ歸ス可キモノナリ此
 ニ各自ノ出金高ニ比例シテ其平等ヲ得ントセハ此五百圓ノ損失ヲ五
 人ニテ平等ニ百圓ツ、分擔セサル可カラズ然ルニ戊ハ未ダ一錢ヲモ
 分擔シ居ラサルカ故ニ更ニ此ニ百圓ヲ差出ス可ク而シテ此百圓ヲ殘
 額ノ五百圓ニ加ヘ六百圓ト爲シ之ヲ各自ノ貸金高ニ應シテ分配スレ
 ハ其損失ヲ一樣ニ受クル譯ニ立チ至ルナリ即チ右六百圓ノ中丁ニ三
 百圓ヲ與ヘ丙ニ百圓ヲ與ヘ甲ニ二百圓ヲ與フ可キナリ
 組合員ハ帳簿ノ保存及ヒ檢閲ノ權利義務ヲ互ニ有スルモノニシテ各
 組合員ハ何時ニテモ組合ノ帳簿ヲ檢閲スルノ權アリ又其帳簿ノ管理
 者ハ必ス之レニ應ス可キ義務アレトモ檢閲ノ爲メ事務ニ妨害ヲ爲サ
 ルコトヲ要スルナリ
 組合及ヒ商社ノ規約書ヲ論ス

先ツ規約
書ノコト
ヲ論ス

組合規約
ハ主要ノ
點ヲ定ル
ニ在リ

先ツ組合ノ規約書ノコトヨリ論セシニ凡テ組合員ノ間ニ於テ互ノ權利義務ヲ決スルハ必ス其間ニ成リ立ツ所ノ規約書ニ依ル可キモノニシテ其規約書ヲ解釋スルハ普通ノ解釋法ニ由リ之ヲ爲スモノナリ然レトモ組合規約書ヲ論スルニハ主トシテ左ノ諸項ニ注意セサル可カラス

第一項

組合規約ハ必スシモ組合員相互ノ間ニ起ル諸般ノ權利義務ノ規定ヲ網羅シ居ルモノト見做ス可キモノニアラス又必スシモ組合規約書ハ一切ノ權利義務ヲ悉ク定ムル趣旨ニテ設ケタルモノト看做スヘカラス只其重要ナルモノヲ定ムルニ止リ他ハ之カ明記ヲ爲サス法理ノ解釋ニ放任シ置クモノナリ故ニ組合規約書ニ明記ナキ權利義務ニ付爭論生スルトキハ從來ノ慣行營業ノ目的

組合法

二百二十三

等ニ由リ相當ノ判斷ヲ下シ果シテ規約書全体ノ趣旨ニ
 抵觸セサルヤ否ヲ定ムルナリ夫ノ組合員一人ノ所爲ノ
 タメニ組合ヲ解散ス可キ時即チ組合員ノ一人カ規約ニ
 背キタルコトアル場合ニ於テハ他ノ組合員ハ之レヲ理
 由トシテ組合ヲ解散ス可キモノナリヤ否ノ爭論アル如
 キ場合ニ於テハ獨リ組合規約ノ條項ノミニ據ラス組合
 契約全体ノ上ヨリシテ生スル各組合員ノ權利義務ヲモ
 參照シテ之ヲ決定セサル可カラス

第二項

抑モ組合カ其營業ノ目的ヲ達セントスルコトハ最モ組
 合ニ取り必要ナル事柄ナルカ故ニ規約書ノ條項ハ可成
 組合ノ目的ヲ達スル方ニ之ヲ解釋シ勉メテ組合ノ目的
 ヲ破ル方ニ之レヲ解釋セサラシコトヲ要ス故ニ縱令何

的組合ノ目

決

合

組合ノ目
的ヲ達ス
ル方ニ解
釋スルコ
トヲ要ス

程規約書ノ條項字句等漠然トシテ明確ナラサル時下雖
モ可成組合營業ノ目的ヲ達スル方ニ解釋シ若シ其目的
ヲ達スル爲メニ必要ナルトキハ其條項ヲ何程狹隘ナル
範圍ノ意味ニ解釋スルモ亦差支ナキナリ此事ハ獨リ組
合ノミナラス會社商社ノ支配人ノ權限ヲ論決スルコト
ニ付テモ最モ必要ナルコトニシテ其一例ヲ擧ケンニ茲
ニ新聞社ノ持主數名アリテ其持主ヨリ五人ノ委員ヲ撰
ミ總テノ新聞社ノ事務取扱ヲ委任シ且持主總會ヲ開ク
職權ヲ與ヘ其總會ニ於テハ多數者ノ決議ヲ以テ各持主
ヲ檢束スルコトヲ得ヘキ旨ヲモ定メタリ然ルニ右委員
ハ其與ヘラレタル職權ニ由リ持主總會議ヲ催シ其總會
議ニ於テ出席者ノ多數ハ新聞社ハ勿論各株主ノ株券ヲ

組合規約
ハ詐欺ノ
器械トナ
シルコトナ

第三項

モ總テ他へ賣却ス可キコトヲ決定シタリ後此多數者ノ
 決定ハ不同意ナル小數ノ持主ヲモ檢束シ強テ新聞社ヲ
 瓦解シ株券ヲ賣却セシムルコトヲ得ルヤ否ノ争起リタ
 ルニ裁判所ハ多數者ハ此議決ヲ爲ス權ナク又各株主ヨ
 リ委任シタル委員ハ斯ノ如キ總會議ノ議決ヲ不同意ノ
 少數者ニ對シ執行スルヲ得サルモノト判定セリ
 組合規約ノ條項ハ其字句ノ如何ナルニ拘ハラズ可成一
 ノ組合員カ他ノ組合員ヲ欺罔スル如キ詐欺ノ器械ニ爲
 ラサル様ニ之レヲ解釋セサル可カラズ例へハ或ル組合
 ニ於テ半年毎ニ計算ヲ爲シ一旦計算調ヒタル後ハ他日
 之レヲ非難スルヲ得サル旨ヲ規約書ニ記載シ置クヲ習
 慣トセリ此場合ニ於テ若シ組合員ノ一人カ不正ノ計算

イニ要ス
ハ式ニ依
ルテ之ヲ
行フコト
ナリ

書ニ他ノ組合員ヲ欺キ調印ヲ爲サシメ而シテ後ニ計筭
調了シタル以上ハ規約書ニ由リ後ヲ其當否ヲ爭フ可カ
ラス抔ト主張シテ己レノ詐欺ヲ組合規約ニ由リ強テ遂
ケント爲ス如キコトヲ防カサル可カラズ故ニ此ノ如キ
組合ニ於テハ其規約書ノ規定ニ拘ハラス欺カレタル組
合員ハ尙其計筭書ノ當否ヲ爭フコトヲ得ヘキナリ又組
合ニ於テハ計筭ハ年毎又ハ半年毎ニ之ヲ爲シ會計年度
ノ間ニ組合員中死去スル者アルトキハ前會計年度ノ計
筭ヲ以テ其相續人ヘ利益ヲ分配シ敢テ前會計年度ヨリ
死去ニ至ルマデノ間ニ生シタル利潤ヲ別ニ計筭シテ死
者ノ相續人ニ分配セサル可シ云々ト規定シタルコト往
々之レアリ然レトモ若シ此ノ如キ場合ニ於テ組合ハ數

組合規約
 書記シ
 アル各組
 員ノ職
 合員ノ職
 權ハ之ヲ
 濫用セサ
 ランコト
 ナ要ス

第四項

年間年度ノ計算ヲ爲サ、リシトキハ組合員死去シタル
 時此規約書ヲ利用シ數年前ニ爲シタル年度ノ計算書ニ
 由リ利益ヲ分配シ其以後死去ニ至ル間ニ生シタル利潤
 ナ分配セサル如キコトハ之レヲ爲スヲ得サルナリ但シ
 組合ニ如斯規約アル所以ハ已ニ計算ノ期ヲ定メ置キタ
 ルニ死者ノ爲メ臨時計算ヲ爲スハ不便尠ナカラサルヲ
 以テナリ其間其間其間其間其間其間其間其間其間其間
 各組合員カ規約書ノ條項ニ由リ與ヘラレタル權力ハ組
 合全体ノ利益ヲ計ル爲メニ與ヘタルモノト之レヲ見做
 サ、ル可カラス故ニ設令規約書ニ明記アルモノ之レヲ奇
 貨トシテ組合全体ノ營業ヲ害スル如キ方法ニテ其權力
 ナ濫用スルコトヲ禁ス譬ヘハ商社ノ場合ニ付テ其例ヲ

組合法/松野貞一郎(講義)；畔上啓策(編輯)

(英吉利法律講義録 (1886 (明治 19) 年度 第 1 年級))

229 ページ以降の講義録(37 号以降)は非所蔵